狩衣下紐

本 伊勢忠

内閣文庫

狭衣下紙第一

はしたのひとといふさぶらふもの御ぞをあがらせ給ふ
あらんかぎりの物がたりをなんめ給ふる中に
みな笑ひあやまりぬ給ふ中に
あるかぎりのをかしきことをもとりあつめ給へるとあり
ばたをかんたんにもこと葉もつゝかくして
とゆくりなく賀茂の神垣ちかき善覚堂の仏
紙ちかくに合て造営の次第神社の名
此底なる下紙と外なる双紙をかんるに
乃あるゝ仏の事と懐中にてうたうたと
光源氏の物がたりのかんの解なるべし物がたりのかぎり

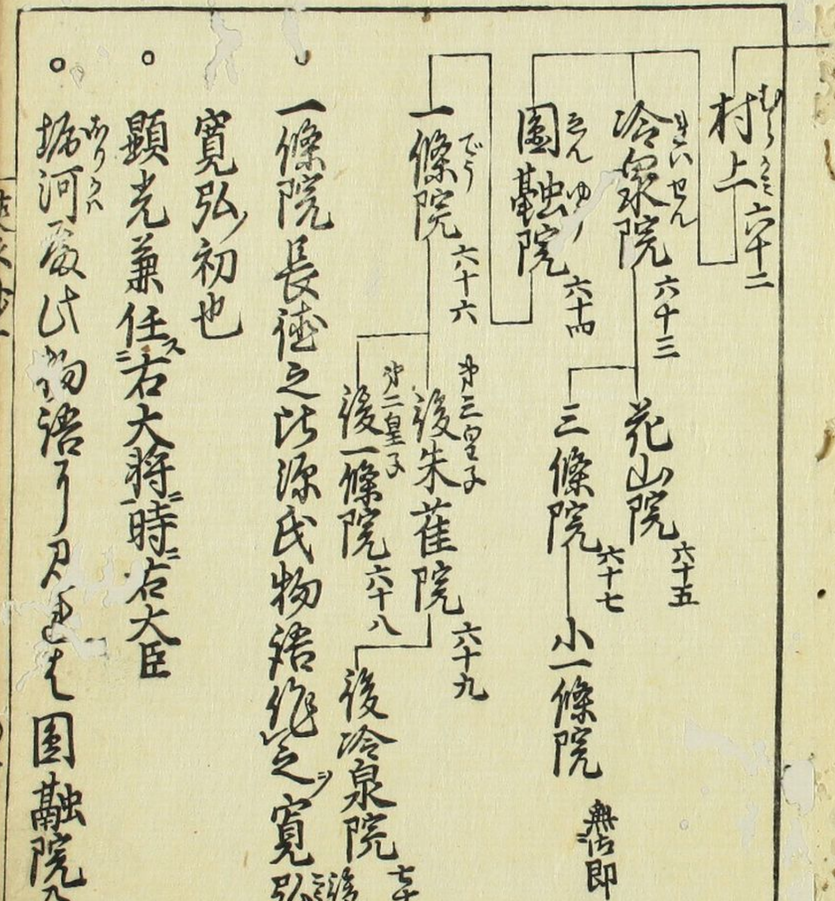
らず一条院猪隈家祇園社
より藤釋迦堂後鳥羽院
あそびきりつまくしまぐしつ水法後あら
んとて牧あやまち成あらんあらば
天正十八年初冬ふ書写の切をりめ沙弥宗

五十九代多武峯一皇子

後嵯峨系圖

酰敵天皇 卒

朱雀院 六十一



一條院長徳之比源氏物語作之寛弘長徳長保
寛弘初也
顕光兼任右大將時右大臣
堀河後代初治り日記園融院乃二ハ世孫

ゑべし

○師輔 右大臣九条殿 坊城殿

伊尹 謙德公 一條摂政

兼通 大政大臣忠義公 堀川殿

今上 被衣の大殿

○堤中納言 堤中納言殿 桜町殿 為時

式部丞 源氏物語作者

大弐三位 被衣作者

一式物語は源氏物語なり物也 又雲居の大将冷泉院なりに似たり又花山法皇或は宇多の御門まゐ王位法とかたりし時 特一語い者なり

賀茂の明神 祭ドのひく 潔斎 乃 多 と 法 一

ゑぐ〻とかさせるに我はさやうのことまち法

らぶとかさせる〻へやうあるてやもやて

あぐ〻せるひ〻ぶ〻ぐいく〻ほどもくしてあぐ

もうしぶ法とりつ長のひ〻ぶ〻寛平元年

十一月より 條時の祭あり

一時代をふ 一条院寛弘比源氏物語作

是四年ぞり 源氏物語ん

人を泡釋よをむぐる也

一か年の長 式部元 同 塔か年 まゐて

くきりか年とき為年 光ゐ元を 法

と云ふ所なるべし
一中務の茂し　引歌あり　さい所なるべし　花松りとのこと也　はるの所　古事記
とぶらひ也
一あてなこそり　引　云れ池やみなでの川せにたるべし
らん岸の山吹　そこ也　あり　源氏胡蝶巻の侍
一侍童　同あ
一源氏歌　さ夜のひとこと　播川大臣乃上八せん　参議院元　高砂
はいとうとも　歌　歌あり　まこと　なりあり
の後大臣はれ　はるの　さ夜乃法師也　中納言中務
八源氏歌乃　歌如し

一そひふさも　二人の女へ
一ふ歌　後一条院也　級字也　くさぐさとよめり　級題
一花の　ひ　級字也
や片岡乃
一花ーそ　花ゆと　茅巻乃　寄あるべし　は河あく
宮都　引　みかはらまの　言　山吹乃花　花
の中ゆ　ふれ
一ふちあ　みも　引　山吹の花　歌
ふ　ふ　ふ　

て独りをも
一角りをぐまに引 后一つみさりをぐまに我る
きやはるふんの打てやこめる 此奇 第三巻又
あるとき房人のあるを我といふんし
一りを房のそらにたるとんるーらやまで苦れ
の地をえし
一むを絶れ到一度引奇来動ふこれち
一ちるこのきり 物ひをあ〜ふさんもをうふ
ちるさにあて二巻ふり 姉妹兄弟のごとくみ
てといふんし 角時きを史婦をきの花といり
一夫房ぬ交ちるどもて絶ぬ 絶さるどころれ

一房をうーめ 見そうり双紙地をとれまでたべし
一右陽乃はゆいぜん 此色きやうの門ぜこれ結法
ちどいふ昊中ちる
一右ちん帝ていりうと さ衣の法母也
一洞院 太政大臣 後一条院法御
一坊門 ちん帝法ぜ 武アの交乃法もをめ也
一今上 ちゴの続乃一の交表交也 宿つの上れ法縁
一ク房法中ゆも 婦川房の殿宮れ物をる乃法
親めきて え絶つる法腹りさ衣のむまれ絶ら
事をを出せり 男子ふ〜〜〜 被衣れる也
二二位の中将 さ衣れ角宮也 夫通をあ〜〜め

て紙を引とも有　紙をぬとも也

一第十六　三十塵點功　若大通智勝仏とや紀

ましくくは仏弘通のまぎ　王位の時法華十六人

あつまり如来道乃場仏所へ詣して法華をきゝ如来の

入滅の後十六人菩薩達元生成利益して

十方分身して佛ゝ成給へり第十六番めの法

華界みして如来をとゝ給へ

ゆ別しの婆婆世界みして如来をとゝ給へ

一有りつたりけ　引大宮ゝ有りつたりの神も

ゲ那　去ちる花紙風よまる也ゝ

一仏世尊八万四千ゝ有りめして法華ゝ有る者

世ゝ有りつたりけ　引ゝ有りつたりけ

ちる花よ世上人拍手さまゝくゝ有りつたりと双紙ゝ書

一ゝ　そとだらも也

一有る人乃秋のちる紙一枚ゝ有りつたりとも同ゝ有りつ

多やはる多ん　羽斗し

一去年みてだ入ぬるゝそれ若ちるまやみくまくゝ有

ちゝくくのあり多

一つゝ　引年をゝ感ちるみぐゝいにあり事まき

た紙ゝ有りつたりの滝まさされとや　大和乃ゝ和し

さ衣乃ゝ有る　ゝ紙はゝ有りつたりとも　叱云狭

衣れ有りつ書法法ゝ有りれ人のんちるべさし

一聖徳太子ノ引給ヒシ書ノ聖ニ書ヲ[illegible]
我ニ聖徳太子ノ引給ヒシ一紙ノ御ノリケル
一梵網経　梵網経二巻　花厳経ノ結経也　一見聞女
人一紙失眼切徳　花厳経文　二尊院ニテ国正ノ女
九月ニ尋ネ出シ梵網経ハ中ニ之ヲ今ヨリ所ニ梵網経ハ
下巻也又尋ネ出シ上巻ヲ[illegible]
一琴ハ　時ニ[illegible]
[illegible]
一[illegible]　[illegible]日本紀下巻ノ[illegible]天稚彦
一源氏ノ[illegible]　[illegible]ハ圓融院　内裏ノ[illegible]
[illegible]

一中将ノ間ノ[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

又引つゝみてつゝにようゝんをの山乃上ゝ出つる
高砂の松の木乃 是ハ嫁別
一志のふすぢ　毎ぐれゝ見てとしを
思ふ事べし
一大内　大改大臣のたむしをめ　今昭君別ひ
行て　後一条院へまいりせんとゝ給ふ
洞院の上ハ橋川の和とぐれ山乃
一去文ハ後一条院　内と中ハ一条院也
一中ハの文ハ　中ハ　高蒲よ
よさびめ賢乃ぬハ山紀と也
一千帝の里　初帝　未敷八宮の法名よ之是　只ゝとゝ之也
別よん者

一ゝかゝ高どゝも　高蒲　高蒲ハ高くハ
ぬゝも也　隠身　ゝとめゝれてゝ
ゝゝ　進　拂　ゝとゝ法制禁
一ゝゝひゝて　ゝゝ　隠身　答中　初也
一ゝひのみちをゝ　ゝゝ　大将法身
をゝて　ゝ　ゝ
一あゝぶ　ゝ　あ　ゝ　信よする也
ゝゝ源氏よ　ゝ　ゝ
一ゝゝとゝ　ゝ　源氏ゆゝのまゝよ
一あゝ　女房　隠身ゝ身みてゝゝと大将法
ゝゝ後のゝゝゝ

一彩のあやめ一ぢち　引落てとられる時多りを
ひけらくなるゆえ
一まくめまの　白沼を　まくはるるとうけるる枝
白沼まの立動まく波ちるとのん枝をのいうくれ
一んときき　利根ちるる時多　根求出るる也
一ゑんうを　源氏みをも川あり　うくれ源氏
よちゝ　菊花多字也　信よ大和姫名とをし
一みをわるでの奇　彩のあやめもみくめづら
葺しゆへとも
一うちつ多びさうちるどハひさぶ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
あるまくき　あやめくよ源氏の文八乃宮ちるどに

ぶんとくめ給へり
一文まくぶ　紙乃まくぶ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

一ゆりひきこと　ことあるべし

一ゆり　筆ゆりし法也

一丁ゆり　ふむまてゆりさぐる　手さぐる

ゆるべし

一ゆりとめる　引手あるべし

一うゑ　ふのゆりかたも　きびむ　ゆるもゆく　ゆれ

もゆるれぬ也　根も流ぬ也　うゑを流泥のん

ゆるべ

一ゆのゆふさり　みはは　筆門　ゆるめ　ゆれ

ゆ也　宣　耀　ゆ　ゆんへの法んぐ　ゆ也

一文ゑへ　ゆふまゆぐ　ゆんまゆ　ゆせばゆ也

一中文の法ゆ　さ文ゆ法　ゆ也　ゆ　ゆ

むゆ　ゆ門の法也　ゆ法　ゆ　ゆ

ゆ法　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ法　ゆ法　ゆ

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ法　ゆ　ゆ

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

一何ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

て法ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

一ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

一さゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

一ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

一門ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

さちもべし

一大納言　南院殿中納言　一の大納言

文をとりよせて中納言

まこざめ云出ひ人　実乃大夫（私は義誤）　中宮

一左衛門督　納言法弟　宰相中将　左大将

はるや　宮離屋　内侍殿

一源中将　さ文也

一ひのえんみは　合奏ちして　独くとの

勅宮也

一中勅使の文

少将　笙の笛ゆき給ふ

姫君　弘徽殿女御　太皇太后宮　天雅ゆえあり　長橋の局　姫君の御方　ひとりとの

一中みも　さ文ハうめもれみも　横笛いまもひ給ハ

ぬまつ松くハつぐとも

一ちうひ　こうひちでめて　給へと　勅宮

一つとうぐうの　め武勅宮をとむ　まんとハ

まあこ　大臣みもを

へ文法因公ハ曲ゆと　ゆもとゆ給ふ

てうこ笛とゆ給ふ

一こと人くも　さ文の四文　めを給ふ　ゆ

琴ゆ　ゆ中りくと　ゆ給ふ

文へ琴をとゆ給ふ

との勅宮也

一うつくしきまゝに　中将のむすめ　法師の宮
ちゝ　まつるまで　歌の紙とてわざとうゐ
〳〵しくかるゝなり

一うへ　はりわたしとぬきとをかへ　雲人〳〵
ぬうゐ　ぬがめ　ぬたの　〳〵　ぬうゐ
うゝく　汁とて　さの　結ひめ

一つとうて　虚空をあらく　しゝゃ　ひるも
大臣の　節　ひまさりて　ゐる　紙　ぬるゝ　ぬとゐ
ぬ　ぬゝ　ぬしとの　勅

一宣旨　拾遺　さぐれ　ゐん　宣旨　帝　乃法
姉也

一ぬゝの　ゐ風　〳〵　ぬがさんい　中将乃尼　出絵
ハ天　ぬ　ぬ　ぬ

世を法門又母の法名後世をまづてまつりまづきら此間を作給へし

一雲のまう　雲興可考

一あやうく　法門乃法名しは世をうさ衣のんとゝめ

さらん事を思給也

一二条殿　故院

一法宮をば　女二条殿法門母后をもゝ名なくもひ給

也あわれ法名を光下しをし乃勇の代みを天子ゝ

衣へと思給を源氏の子よん隆給ひてうもひき

給りて弘徽殿乃つまを光乃まをてさ衣思び

給法母我勇ゝ御さを給ひて

奏しまよしは法歌ゝ法誕生の七日めに母后うられ

給ふ後ゝ後ゝに御ゝ法病ゝとをて法

げ御ゝ給也

一后もあるや　女二条殿さ衣ゝ

せられて天上のほゝ御ゝ

一大殿御　御ゝ川殿ゝ

まゝに伊豫守　退出を給ふ

をゝすをゝ世給ゝ

一御給へゝん　天上ゝ

石法乃中を母后御

一世ゝ

一ちく西川　引奇者動　ちり門辰禁出人の辰を
うしれは浪乃ゆ須
一屋のはしらく　陳のちぐ　壁のはしらちらべし
一中将　大臣乃はしら　夜上の宿とで出給へるし
一ためしひて　浪す　明ゆへ　か思ひ　ありては
あへ給ひしく行ゆもいひをゆうしゆ
の河し　車　乃外翠　ちるとハをしへ行ゆ
一あをれそ　きくもとてふハもりしふ
主めもまひだしとありひとも
一つふ文　只は一男かとも
一はしくあんゆふ行へしく　美外ありいく

一中将　としし我は極つびを浪へるちらべし
一みのちゆ　天のを妻は代り　女二宮をまつ〜せん
とのは門乃はなり也
一ちゆやと女二宮れはるゆと　推量ちぐ〜武蔵の
乃ゆう源氏の文ちゆ〜ちとも　ありひぐ面ちまんち
ぐ〜〜こまゆて
一むさきの　徒歩の辛しさ　乃ゆを源氏文ちゆ
だとのん我ゆとを天ゆ　えんはさを給へし
引
むさしのむらひのを　れ草ちまま　根をしぐ
てもあんとぞ　ゆふ小町　何もはゆうも
一ようゆ〜ち　女中文の振し

一三文まで　みとのはんへまり
一ちく一こゑ　引文の秋ノ外ゝとまれど時鳥一こゑ
　ゝ時なるこの光
一毋文いつたにまうし　国あらくくてびれるんし
　家ノ日　源氏時石寺ゝ
一はてゞうゝ　はぶちどりまちまちひ行へど・ゝ
　ゝ角也月ひ行いめし
　いづはまへとあれと毋文とゞめ行へる也
一木懸の僧都三井寺ノ寺名ハ未詳也
一きりゝすゝ　家司　撫子ゝ
一はいのりれさ面ゝとこちゝけよ　ゝとくしく思ひ

を出てはるまできハ源氏文ゆへ引線いづゝとさ文
の歌ゝ也
一うへのいとゝ　女二文ハんゝはうん　源氏文ゆさ
ゝ紀時ゝとあれ行へる物ゝりぎとすきづく
て此ノ分ノ代ゝとゝ　ゝづゝ也ゝくゝて此源氏
文ゝ也
一文くゝゝ　狭衣　光ゝうさ文と髪すゝ
ゝ此ノ分の代ゝとゝ
一袖ゝ　引裏の歌を袖ゝとゝひをさ
人ハ袖をゝ物とゝはさうん
一山さハ　歌のゝ也　薄雲ハ巻ゝあり南時ハ也

とのんて用也

一花さくもまれ　引者きさきを紀つまぐ旅ちう郭ニ
まるたちまるにやどハ物くもん

一春すくう　さ衣奇也時ちうハ[illegible]くちくねを
世知人のちうとも

一別名ハ金山　端厳甚微妙　注花序ニ　釋尊法
花を流行りんとその瑞ニ白毫ハの光ゆて東ゆ
八千の世界をてらし給ふる時ハ東方九国土の
仏ハ分おのおのそれぞれさきをかりるなり
一あまたあつあつとさ陰式　又兜率天のむくへよ
ちもどうしもといまくしくこうも

一文殿の[illegible]
一ちまちひ者　極暑の法ハ者也　三笠山ハあり
ハ者連歌ハ人中ハ[illegible]ちうきゐ　秋ハ[illegible]ひ
者ハ嘯　腦ハのごとくあしあをのもんと
これを新ちう世の世ハ[illegible]ゆへうえ者ざうし
一秋後　さゞの後中一源氏文の法いとこと也
一恵又中将　式日紀ハ[illegible]　伊勢物語のるもちうべし
女一ハと[illegible]ハ源氏宇治巻ちう物ら
平ハ
一我ちう　狭衣奇ち家八海の煙をむしちう
絵ざちうし　さ衣ちう年ハて源氏の文ハものび

おかの御くらゐ

一はるさきり　引うゝの川　はるさきり　ゝ　引うのの
こにはゝあそび　おひもきあとも

一かすがもめちとう　引　奇　本歌

一えもも　さえの法　新えうゝんと　自心ゆて立法
ゆも

一ちうべ　えん人く　引　ちうべえの乃法　ゆやあゝゆ事を
ゆず　ゆすも

一ゆれとう法　ゆとうるもさえれ法ゝを　ゆうよ
ゆうも

一あらそうさ世　引　奇　本歌

一ゝゝも　伴門のさえを　図書　みて　退出の　婿　ゆ事
とゝ法と　ゆ法も

一源氏の　えの乃法事　去えへまゝゝもあと　恨法
ゆゆうも

一太太　當　去えへと　系　扁　ゆ　透　法

一何ゝゝ人の　名太　ゆ　ゆれもゆ　ゆさゝ　法ん
ゆと　ゆ　とさえへ　えゆ　ゆとゝ乃法　法　合も

一法　井乃ゝとゝう　法　ゆ　ゆ　去ゝへと心ゆ　ゆ
らさえれも　ゆゆ　ゆゆ

一　格中　納　云

太政大臣　一条院の文法

東院上
左大臣今は摂中納言春宮大夫兼官し

一大の母くれ秘もとくんむもとめ　式部卿宮源氏文
りハもとくんむもとめ

一みびうくゆる　ちゆ海陸とあまぞ王孫我今
姫君角梅を

一もちぐう　異たりもさ妄れうどうつるあ人牡
量めづもとくもとくし

一ほくをまれ　さ妄の新文をおとぐ出らんじて
あうりし時乃ゆ

海也

一東院の　新春ハ法懐慈ちぐう好文のうくハ
くくは新樂あれどうこく方法ぬすこ出て
ちんくうぐこ三人の上をしきれてやこ
しもむうぐうもおとぐの今れうくこ三人こ
一ひとうあうは　新春好文の歌へうぐしきうゆ
出はとも
一四の法きく　節れ緑り女二宮のるし
一うちくみも　女二の文乃法ゆあうさう作
られうんとも
一あ面もけう　さ妄のんし中くちゆびあう
んとひのゐれ法ゆ文ちうべし

一ふうりうのあそび　はるゝ
大臣の酒もり
一ゆうぐうして　ひぐらしうたべまとのきしき
をゆんて元服し
一ほうさ殿より　狩衣弁也源氏文を取て金れ
へもんの佐うさぐとも
一年をかけ源ゆうみあるまへ牧いを淵の滝ま
されとや
一母文　さ衣のまいり給へも墨氣るや母さ給へ
ゆと母文の法師
一殿のさぶらう　母上のわうをぐれ給へうし

一文やせハ　さ衣の法師うゑんとしまし来風ゆまさぐび
てもあるくまうんもあるくもうとも
一わうまる　まうまる
一めづらうん　まうこの女房のうも
一中務　引　母務乃ふまそちる常陸常光か
ぐとぐうハあそんとぐうあのそとぐうハ根
をうあんとも　うふうや給へ来とさ衣
の法師ゆて見わうを給へうも
一殿の　まう門殿の女二うへほのめう給へとあれ
どもハ文　さ衣の法母　うまうあぐめ給へとも
一母ぐさぐうう　女二ゆとかの代みとあるとめ

ぶく上ぶ　あんまあ　ことあがられとやあり　しと
さんわる也
一ぶるまぬ　きたぐし来るものまで　陰乃ふに
敷れ敷まぬを　易出ぎやさし
一ぶるぎは　又いく世もあるまじうん　くの
陰乃我母上れ法新文もうりてぬりれみもゆく
しぶるまの陰乃ふとと陰らるも
一ものうく　女二文と物ぶく物ぶめさば去ぶて
まうくせ陰さんやぶまして母文のきくまぶそ
あるまじうるもの也
一日三位　母文の法ぶうぶぎぶ危也　乃去一日

塚門乃上れ法兄弟の中法者の弟
めでたさん女二文乃ぶうりあぶくまし後
も我妹あのりあのりぶ人よゆぶんと天文れ
の陰ぶるやうぶうまもうぶ也ぶぶ者ちぶ空ぶ
されんもぶぶと也
一くぶうり　めれあぶまもぶぶやうてさ文の三陰ぶる
一苦ぬまぶ　明へまぶる　ぶうり陰ぶるはあでうりあやめ
乃奇ぶめうぶ我陰陽ぶ見ぶまし陰男ぶ
もぶまの家ぶくまぶもぶまあ八中物乃宮のあれ乃
法兄のとも也大納言舞しと二巻う
あうぬぶ代物緒を板乃ぶもぶ出第ぶ乃可

[illegible]

一中将 [illegible]川殿乃法もしまあ去文乃法毋 [illegible]門
上ぐちよ殿も [illegible]

一物の [illegible] 洞殿上中 [illegible] 一と [illegible] [illegible]
き根なのんも 引 孫上 [illegible] 野乃 [illegible]
もとの [illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
[illegible] [illegible] [illegible] [illegible]
和宮の し源氏むらぐ [illegible]

一うくさ殿〳〵 去文 [illegible]
うくやこ [illegible]

一中将 さ文きを源氏の文のみ [illegible]

物もうげよさぐらうり [illegible] 所うくうりやと [illegible]
し [illegible]
引 [illegible] 更科やとぐ [illegible]
[illegible]

一去文 さ文まいう [illegible]

一入める [illegible] 去文の [illegible] 引 [illegible]
[illegible] [illegible]

一みぐらぐち さ文河も [illegible] 暑氣 [illegible]
[illegible]

一ちふんち 去文の [illegible] 物 [illegible]
[illegible]

一これはかりにせよ　把の物ひろひ　かくしぶ[illegible]
[illegible]の後みを[illegible]
一源氏の家　[illegible]の法[illegible]中にあるべし
一あるぶ[illegible]　古物ぐるまもあるべし　[illegible]大うるひ物
[illegible]元紀元
一人のもとまで　引きのびれどもあり出ふるり　我
[illegible]のやあるかと人のもとまで
一[illegible]　中ぶ[illegible]の物ぐるまあるべし　あるぐ
き[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]
[illegible]れどへとへのある人[illegible]
[illegible]

一[illegible]　さ家のこと
[illegible]ん　[illegible]
一わるし　狩衣寄也　[illegible]れ
一海[illegible]　源氏家　[illegible]
みけ[illegible]
一せんようせん　さ家のまのぶるひあるまで
とそ法退おし
一二条大家　仁和寺の威儀師　[illegible]
[illegible]の法　[illegible]
[illegible]

一ものがたりは師匠の御談と本　さ長の車

入るべし

一わらんべ　供の童僕奥をはるべし

一ぐやく　源氏物語のりあづまの人ちどの物云ひ

一ものがたりとぐめて　とぐ絵にして車礼亀

和やとぐむるし

一母上　越前の井元張元章のある故尼元

うたんといふ

一法師もうして威儀師おぐらも

半銭をもらへて見るに仏のだちみて見付ふ

とあるのまくやも　ぐぐく車やれと威儀師

元張ぬすみえて半銭よりそをとりのゆく見付

らまくるもも

一師子ハまくぐ　師匠ハまくぐみと云法文をまく

まくるとも　師匠ハまくぐ

まくるとも車をもとめ

じとをそれるゆるせるやも

一元章まくく　ありさ長をもにはひる銭をも

ふあくまるもとものせくるも

一うのまくに　章りとうんをみびてもりくる

まくびまくすりは師匠うれてみてはまに

まんとハ云て出縁松もまいくるくるれば

車まいれとまくし

一めをそまんらんハ　さ衣の法師　しるの小ぶりをも
らあるとまるべ俗しうんうきたるよりはとい
んを法師ありされとくはれてゆんさるく
いまるひくてあるんハつくと思ふも度へちんと
ようひいつまそやゆくんとも威徳師うげさうぶ
きてみまぎるるさぐ姿みてたゆまるやゆき
つくんやも
一あすう弁ろうひ物と能舞弁よるどうハさべ
しうるもうみもひまきも（佐秣）みま苦ようし
やどうせよやもいつくと思ふちぐく車へ乗う
つう法へる

一つとあるく　能舞弁乃えれ物也　あるのいとあ
ー　さ衣の法師も
一ふるうしれうーの山ふりまりうとも　とくきんと
物ふ我ちるまくよ。うちまそくんうくみげた
ふとあるん
一あうはうるうらつ巻も　もたとそかるつれ
やも
一なる我はいも　法師とゆあうをくきくるまる
いさ衣の山りはけんとのまふ法勢　さだうハさ衣
とあぐくまぐくまぐくえ弁みうとはげくそれぐ
さうくのつとそてあるうたばは　さてはまくく

ゆんとさひて　ちのぐあず　ちんぬ　しさん
ぬをゆりひちぐ　ぐ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　さ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

一ちんぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

一

[illegible]

一物ものゝ　龍寺井の名のゝしは所のなかにはなくもあらぬ
てまゝ紙をゝへはるとさ夜をとゞゝくゝるゝ
ちるべし

一大浦の名　もゝへの車まとゝるゝ人ちるべし

一物ゝえちれ　さ夜乃河也

一うちとゝそゝまれ　うちくゝとゝんし

一あ屋ゝう　さ夜乃ほんゆ也ちるべ或宿世とも

一そゝや　はゝよゝもゝれつゝんとゝゝりゝゆゝす

一あゝはるゝ　ちゝしゝりゝひゝゝしはゝるゝとゝ

一さゝゝゝとゝ　龍寺井名寺もたのちるべゝて

とゝゝゝれをゝゝれとゝの法ひゝまゝとゝある河
北谷也　龍寺井乃話物をゝゝてみまくゝゝとよ
しゝゝゝさん不ゝくゝりるゝゝゝゝ早下ちるべ
ゝるゝゝあれやどゝゝゝゝゝゝ
一そゝの水ゝを　法もゝゝゝのん含めり
一あゝゝゝゝゝ　徒夜奇しゝげんゝくゝてゝゝゝゝゝゝ
法秣ゝれハ法師ゝゝゝれ荷ゝてゝゝゝゝゝゝゝゝ
一車ゝゝゝ　人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
さて車ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一法車　二ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一あゝの人ゝ　あ屋ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ちらべし

一ものさくちく　法師ふんさうるれども八狭衣は
常盤と云也

一うてつうう　源氏ものがたり
一ものとんあハ　例の系譜を今うきり帥中納
云の姫今姫君と云也
一ゑ中の歌　うぐへのうこづめふくうう法あるう
をありひて仁和寺の法師よあづをけうに法師お
ありけちまんけてし
一車ちども　威儀師うけうあうう也今拾元
をあうつうを也

一ありつう半うひ　ものとれもとに出て二条をとれる
くうりまれど狭衣を推あうん姫君ふうふな
どひくくうどに狭衣を西ひ法ひし
一ゑ後　威儀師八ゑまもめのとんやうれど返
うをせめし　ありひ
一ものの人　つぐうぐてうや也とは西うをひきるうを
ちし源氏ゑ問まうう人弱法ありまいう法
乳母ハうひちへもまううんとも也さ衣八推あて
しまうすで姫君八知法もんとも
一ちうし　ふ西の法上と法ものへめのともさうぐ
ぶちうきてある人一日法門をきくあけうれど

掃部遠使の新参の態お將と狭衣の名残惜しうも思ひ給へ
別富屋をあるべきを代詠者代也
さやうとつつもちうどたまれくまいる女ち
どもおぢて面つゝまぞとも
一年ひゝく乳母の祖し我を年老めあびまへ
ちゝふ人やつまてゆんは天狗沢みう人ゆび
らんやも
一うち泣く　姫君ハいづくへちうとをめのとれり
えんも
一面とうまる人を　奥列の将軍れめ不ゆてうぐ

あべ一天ち列面屋はうれかねる屋へうゝひ給
へうも
一ちうは　をうさ衣のはんも姫君をうをとろ人
も乃ゆれ給ひびはるものめでゝとハ物げめ
さひたんううらあひうちく物ぐるをゝ歩
まで思ひも宿物ぐるも
一まゝうく　龍角寺天不面ゝうる寄ゆうく
面ぎれて面給し
一ちうも乃人　吉祥天女　源氏不宮より吉祥
天女をゆ一りせうさうとあゝく法氣付ゝすゝ
てゆゆとゝうゝのぎちうたやどうちうもゝ

一うしろへ歩まんとに　歩まへ
いでゝ奥へ　なほ
へどもなほ
一ばかりなるべし
一まぶしのほどあに　歩まの河也　我分後
ひてうゝ下ゝ
一ばかりでうちなるべさにそ　又分後の
さ後刀をとて
人ゝ奥へ
もとゝうりさし
一ゝ後いくゝ　歩まのゝ

一されとぶに　さ後のゝ
てみちのくへ
多もゝぶゝ
ゝゝ
ゝ也　引
ゝ
ゝ
ゝ

一人めしつれ　源氏文中拾乃時乃やうなり
さくらもみ耳ゐとさくらぐとゐがぐめすも
一ゐまの水れ　引奇事勅　はぐぐとゐくゐめべき
人乃ゐれも

一大文　さ文の母文と碁うくせるへうる時ゐし
一きんぐう　弘澄　あくさゐるゐと　源氏抄弄花
りあり　信よりくさんのゐ
一の衣を一枚　文の法ゐくちハ　引奇　枝の衣袋衣
を一袋りゐもりとゐもことぐ　ゐりて　ゐやゐるん
ゐくくへて八ゐ衣しとハくへくとゐくんくゐる
ぐ　福ぐやゐくゐのゐくんとハ花ゐ牛と

源氏文と云ゐくくぐらくも
一さて碁ぐくりうゐ　はてゐがくくの法ゐんで勝
ゐ文ゐぐゐぐゐとひゐくんぐ碁れゐくへハゐくて
母うへ乃さ文を乃ん行ゐくくハ一切外の事ハ
云ゐし源氏宮ハ法ゐ答ゐ　母うへとくく
ゐくくゐで内ゐうさ衣をくべ度くゐくくへ
ゐとゐの河也
一ゐ紙乃れ　伊予の内侍　二文の人と　二文へ法文ゐぐ
碁ゐくくもゐくゐ文ゐくくしゐ文とゐりうゐぐく
母文ハさ文のゐくくとゐがぐゐくし
一そ乃法ゐくへ　二文のくゐハ法とも碁ゐもくくぐし

て侍のことハ姫川氏三人ありてハ二人ハ乃ち
うせ敷ゝ命ゝ也
一弟俊太郎殿 弟俊の時ハ
そひ給へ共今ハ家系ハ
むゝ給へる用ゝ也 家の中将といへ
との給へり
一先帝 武記ゝ宮

源氏文

姫君 姫川殿の中将とあれ共姫川殿の時
系譜を武記ゝ宮乃中将とあれ共姫川殿の時
みてあらんとさ家の時間也
一志の中べ考 ゆるゆるとのあるまじきことある歟大文
屬くしく思ひ給へ也世中をあくりもるる
ハ都れ事ありくゝ也
一くもぢう 志の中べきく人ゝもどくあるさ人大文ゝ
安ゞしくあに世歟のぐきん乃人ゝもどをあゞめ

姫君 芳薫の后
さ家の時信れ時一文うゝ后へり
姫門上 姫川殿の中方より
中文ゝとうゝあり

てちかくなりぬるかな

一こゑしきりなる奇　さ衣ぬしあるなるや

一蟬鳴黄葉漢宮秋　朗詠所収蟬　許渾作也

漢武帝崩して荒れ果て蟬ハ昔ゆゑ顧とし嘆とし

一さびしうなりぬる草みすりのうんしあるさびし

もとも古しの地

一日の暮れ　引き草花のひとしくなる杖のうら

なるひくあきまんなるべうう

一我ぞ　初うしてまあとものどうく

なりしあしやこうの奇　丸　青尾ちるべ

一野のほどあり紀　郭多井のかあをあがいい

づるハ大くさちるあおがくちるべし

一なりして　ものてあとて井乃宿へや

一こがくまくうハ　引奇未詠

一ひるの　源氏の文とありひくべ法ぐ思ふうあハ

びきとハ源氏文のうやあるか井えせのうべ

とやちんとなりめしや

一源のり法さ紙ぐんらんとなちぎりげるる

ぐくくあまきたなりめすし奥列へうべさ

法ちるひへちるべし

一久くう　把あきれちる紙法法ぐて世紙のぐ重

ムとこはまし例ハ人ハムやあをあを乃秋て

一さしこへ　引あうでこうの思ひん中ハさしにあがさまてあるとこ
ぶ坂の志きぐるんて　古今
一あるうへ　引ものにハ色ぶこと色ものあるけるあるて
くへばかもあるもあれ
一まれハ古歌　さ衣みてあるんとも我ゑ多うあ
びとも
一ものもと　引ものあ歌
一花ぶり　くみぶにふ紅おぶ　陸奥の國へ下ぶ
らもあさうれ沼の水れあもちんとも
一年物ともみちのくへ下ものハ古ろ紙ろ引ぶ濃ぶ

井ハ紙ろ　さ衣ろ
一くいと　さ衣の話ものしろ紙さろるハ古くぶを
ろ白んろかれふ色のさろあるたさ衣ろ
ばんハろ色ものいとろくくハ乾香井衣の
ん中　くちんとハぶぶろ紙ろのめさでやや
物とへ古へぐし歌ことみもあくびとあるひとる
くハばろきんろぶ濃ぶくあるひ紙
もんとせきやあうくあ
一ものを　さ衣ハぶでろ紙ふすくあるをあのこぶさ
きと物ふとも物ろ　引も歌　警　ろれとへ
ふ椎ろあ　ものくて

二人腹十字者とき、来、交

一歯ことや　新代乃うへ今姫君をむこ入給へり年

さちもれどもあれどきるとの腹ちをへしまる

ぐとりてちゐ給へるてと者ゐの地し

又ちゐ義ものよもてちゐ母まも

めのとゐもとく迄給へるより面めやうに塗かん

まちゐ人ちゐ紀すまれぐしくそれぐしきとも

一うもみ　姫君乃母代ちゐ母のゆり抱乃

ちりぐかちるあるとそんり物乃尼ぎと盤乃尼

れ妹今姫君乃母上也

一ゆへくしゐ者みく　母代りまちり事乃の上ゐく

母代を出給へんぎちゐ氏はんりはひどもあまちり人

のんれ乃ちゐ乃ハ乃ゐ給まあし乃代やりてうへを

うづ者給へるちゐべ一母代ちくせ氏ハ何ごと

ぞ志いぐさん也ちゐ也

一んりはうゐ　郷名新者を云て乃女房遣者也

度上人ちゐ〻〻系舎あるちゐべし

一志ハ　と姫君ハあちゐれぐしくやゐ也志のらひ

ありさ腹ちゐ代母乳母世りあしハみせんをの

をとんのちりり物りめすやうちゐ代母代ちゐ氏

まちせられてとゐちゐ者をきのみ也ちりちゐ〻〻人の

みりりハ物りがうんハあちゐ〻〻ますや

一九日の夜ふけの
事なれども 未だ除目よりの事なれば
一ようようびやうり 中納言義也 内又義つね
なんと度へんとなるにてもあるべしやしく
物ぐるめすも
一物ぐるめ物はいと度へ乃ぢなる今姫君西剣へ
一かの后 中宮やどの姫君此まき殺也中宮の女房
達をもちろうへとくくつるもし
一ひすどもの 九帳の紐どもとのようにられとは ようれ
ようにそひきうひきうひきうとちどの紙
一ようやくさやむ ようめくもとのやむもも

一やうくのどかなる まづまるも
一ようようじて さ衣をかんくあるる物ぐるしやはる
乃度上人ハさ衣より乃ん合よ出ちとのみを掲夫也
ひさうへあるる紙し源氏宮治出をうあり
一ひうすれ さ衣乃紙也
一ようよういづくいづくと世治よ云ひしくと
一ようぐや 信ひぷと云
一ようぐや ようを勇也 君の治へくとそみづる
をもべし
一物ぐるふ君 九ハ姫ようそそろくぐ
ぐるふくあるよさ衣の すを紙ようへるるひさうれ

ゆうるも

一さてふく　俗よりとうひへめまたば　喉ござめくせと云
頭ちらべし

一ものみまれ　あんまで　不細おもも

一ものをうえ　混入と云ふ緑入と云ふ　ちらべし

一こはつるふ　ゆがりうれうる面の焦れ人ちまやわが
ものまた紙まうびうちる所　琉球とうる面の焦
と云せも

一あううう見寄

一まくせ　母代と云ふ　ことう見　源氏物語に王命婦と云ふ
一あうしハ為ちの　うりまきハ為ちの　ハと云ふ

筆誤抄

一ぐくちうん　これうき紙のんと

一そやちうあん　白人ぐそそう義人ハ物

きもさ紙をさしての頭も

一ぐうりまて白　わう義人ちうれすさ出も

ぐうんとも

一さぐり　母代ち皆くをふくわくてさ

うまくも

一めぐくき　母代の頭し物ぐ毎ぐへるもとまぐ

紙ぐくきまし物ぐへるもとちらべし

一うを川寺　ゆうもと見見まうまうまる

さるとしとしのあるかたにてはかくしてそれだに
人のあるかたのあるかたとうめり
一きりすてゝ　母うへ　ぬてゝあるきぬ　ものど
うく　をんなの口中　ひからびて　喉乾　ものどうく
しかるに母うへ　ひとくてゝ
一うゝもるり　人ぐのめるとうゝみ給へる
り　清　あるかたし
一又あるかたにりすてゝ　ものゝ中　あるる
うゝ　川の流　氏地絶　おかて
ゆるちどあり　文　神　あるどり　みうし
きうゝ　さはあり　ひ給　ものあ

ぶ　母うへ　ゆるうゝ　給へ　母うへ　ちる
らひく　ゝ　ゝ　ゝ　給　ん　ゝ　給へ　わ　ゝ　へ
ぐ　ひむ　ぶ
一たり
一ゝ　中　ぐん　給へ　ゝ　ゝ
ゝ　給へ
一ひみ　ものへ　ゝ　ゝ　ぐ　ゝ　ぐ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
一あ　ゝ　さ　ゝ　ゝ　給　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

一くるぞめ　今ひめこんれんものの名
一えりもねさくらりゆるゞ　くくのさうぐうめ様さま
一ぬくてる
一あくちく　奥りあれんしたくたくもさたて
でさ衣と乃ありせ法ん乃りをてわの母屋衣ゆ
ハう表わも
一めのせくと　今姫君一服式ゆの衣乃法ゆと名乃
出ゝ水将しそまたくくみるりぬとぐりふ流
とも同様くんと中将よりるべし
一又の日屋乃法おみくく　今姫君のゆ中ゆ
ぬくり

一くくのぬとぐ乃法ん法さ法ゆ法ゆぬとぐくくも
まゞくゞぬゞめすゆるんし
一ぬ下北　ぬくくるくを会ゞ法ん屋さ衣乃
法氣衣をぬとぐ法法ゞてうちくくひてぬと
どぬゞくくもれまく姫君ちとれぬさみも
とり出めをありつゆあり法とうめ衣ゆり
一あさまくと　福ぬさのゆを法らんじあ
くに法とぐ北法ゆを法ゆをあやくゆ祭てえさくくん
きいくやも
一つさや　ぬとぐの河ちするべ
一面と　龍宮井のるもは法ゆ過宴ぬり。

あるをとこ海ゝとたごむべくもあるこに。人まうで
くるあるのみも。みるあるいハ絶たるのみるあり。あるは
も独位ゝくゝ始めくゝ。初めのと千
人ゝ目おとこのあ所つくゝうとやも男れあて
せぬほどそなれだいまた乳母ちどハやくゝ
用よあくばとくゝやも
一つゝ初ひ　乳母出門鏡くゝもひくゝるどひ
てさ女をいとひぐりも　出るもくゝハさ女の出侍
れつんを初くゝもぐもそへあまりさ形くゝあり
きりのさ女へ中とぐり絶のと又威仮仰りと
うせんとまるとも初ぐ　女のさあくゝ

一つゝ初ひむとぐりくゝとくゝ
一つゝ初くゝあるくゝゆしくゝれと女のあるさ海
乃。そやはくゝもわるて呈ゝ。こるまるて呈所
ぐくゝもあくゝねど
一人まうで　源氏宮乃るゝ
一つ海とのぐくゝ　さ女と初ていやりぐゝ
てをるくゝあるしとあるくゝあるべ
一女ゝあるも　さ女乃出初やめのとぐあくゝむあるべ
しあるも
一をとあ　引　恵俺初絶ぐくゝ侍くゝ出た
てくゝのくゝあるくゝをとあるくゝのあ女。いぐあくゝ

ちぐりのまのあれば。まのぶかはぎりうちぬ
ぬ。
一ぬきはなるまめて　さをの法師しあるうちみもも
られしぐとはぎ　ぬんされぐてみ法とうてはな
はぬとしいやしき　ぬみも　ちぐり　ぬきうぬんるる
をれはるるさをてのまるぬんのちる　ぬと　はなへば
はれ　面のかはとはもうもはるるもさをみて
をもうる面も
一ちるふかり　俗ぬ　まぐ　分ぬう　ぬの　ぬ　ぬ
てさるふみあるぬるぬんとてはふ　又さてて
みあるまりうとはあるふ　ぬりひる

一せつまへきんあるとあるう　かるう　こそはあるうとも
一ぬるとてあに　ぬまへぬるるをやもへさみもあう
ぐて又めぐはぬ　法はりさ面るるにひゆうるさて
もうやもてうんとまるるもてみも
一ぬまのうりせる　引手　ぬ　ぬ
一ぬるるるう　懐姙　ちるへし　ぬへ下のぬりひ
とみるう　ぬ　ぬ　ぬるうるまるぬ　ぬへ
ぬうるまへと　乳母　ぬ
一ぬのむへ　ぬ　さ　ぬ　ぬをとん　ぬ　ぬるるるて
ぬをるのん
一ぬるぬ山ぬとはぬ　ぬるひちぐる　懐姙をぬのめう

さんとは申すひとりごとうかてもまいてひとり
ものみぐるしやとおもくて下れば日をうぐるく歟
ぶらり　たゞ今世のうき身日乃てあ山ぶへいらんみち
ちゝ人へとちぐちらりゝれ　河内を見
一はゝ度乃
さ衣の乳母

大弟中宮　武紀太輔　左妻　三条

通重　さ衣の内侍　右馬頭

一めしもるくて　独位　常陸守

一ぐるくしい　乳母并ゝ

一ぐるくしい　乳母のもとへ
ぶらりぶらくるも
一ぐるくしい　面ハ　ちぐるくしい　うく事
ぶとさ衣　廣綱師　おぼえ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶくるくさ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
てはぶやちぐべし
一ひとをもも　乳母のあぐらへちぐべし　いとぶさ
も使のぶるぐべしイ
一寺　ぶまさみくあるまぐべき事と　乳母
ぶしも
一ちぐそさんぐちぐ　ややぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ものと信ぐいぐる事も

一ゆゑ　屋の家をとらるゝあり。
一ゆゑ　料理をとらるゝ　料理をとらるゝ　送也
一はゝ　はゝの母ゝ　ちゝて姫君ハあげまきの母
ちゝ　

又ていとみよ。又は世界をしりてみるべき海内の
こゝろをもとめ水をとうるはもとめもとめていとん
のぞこつむや　瑞夢

一度の　物忘れつるもあるせらるに出愛えるも
物忘れりはとわすれると物もとめ入ぞ又ぐもせ
鬼物忘れ鬼の名も源氏ぞ

一度ぞ　浄懐姫を物がめ　あいせ〳〵ゐし

一あもとう川奇　んうれる　さ衣の名や

一はは久こ面うもれど　ま遠うはは奇だうし

一わ〳〵ちん　能高弁元奇し　みまさ〳〵はあ
もあわ〳〵もうん山やん

一う〳〵ふは　百歳がはう〳〵の車しらあがの
と云須はいむとやこれを陸奥とやいう

一女名　むう〳〵弁　塔不絶　欲虚言を乳母
いふ能　威徳師　車　面うべきものをちがう

一うくのゝ　世年不あるる身時は山林の柄
求とやもうまぼ文ばう人人ちとも男絶あう
やや

一面ゝ　陸奥　駿河守がめ君　情あ面と
みる虚ゝや

一はてもの　利面北が物屋とさ衣の名奈浦う
百は乳母と古知言といつやや　ちんでゝ幸

あるこん可(もうべき)ぶかりとし　小将殿の御ひのうへとて、
はしたハ[illegible]ぶいたをやとしてめしかくる
一あるときこと　うぶまさにおりてめしかくる
やをあぶ[illegible]　太刀をつまずとなんこゝろやも
一あるあぶ[illegible]　あれ物そうしやとこんるるべし
懐姫ちゝ[illegible]人さへ[illegible]ちゝ
一かの小将殿と　さ衣を流すかの殿とめのこ殿
物のかやさ衣れ物やゝ[illegible]たゝ[illegible]のとがんなあ
ゆゝしちうぶたこと物をゝれめや
一うゝまゝこと　法延(のべ)まゝしあゝべさうたる物のひす
てゝ[illegible]ぶとや

一の[illegible]ひちぶう　[illegible]　[illegible]の[illegible]人めのやう
ゝやや法氏文(法文)ゝみとありしうどさ衣ちどゝ
[illegible]ゝんゝやれゝぶうゝさにんごゝゝして出ゝゝ
ざうし[illegible]今ハいゝゝとゝ思ゝ山ゝゝとゝ
一ひゝゝれ引世中をゝいひゝのゝゝゝハいう
みやいゝふちゝんとゝゝん
一京のうち　京中ハ一枚井(尚)井法
ちどいゝゝ日ゝぶんとや
一京ハの法ひ　小[illegible]殿乃乳母の下ゝゝゝいゝ
ゝうぶゝとゝ物やゝゝゝや
一ゝ死ゝ殿　帥中(そちの)納言殿　尼公の兄(あに)し

一久しく　去用忍治しまじきあるべきにはあらず
乳母はやもすれば
一とうとうあり　此延ばしまでハいさて待つべかや
しき女の為ばかりにもうんぬんとあるか
やはらめぐり去用ハ忍ばるるもあるべしかの後
此産れたるもあるべきもあるべしとも
一物とへども　具合　女の苦とハもろくしるべきこと
又良中あり　此云　若し　具　如何
一やうにあるべきにハ　知やはるどのうへ治ばんあるか
そうなれば出そうらうべきこと
一意こそ　未詳

一くるしみ　いきおんくるしみ　さまざまゆへと乳母
出物もあり　かの後へのあるあり　さまざまあるべ
べきさ　筆　よりもあるべしとも也　うべ出さおもう
ゆへ　そうなる　幸　出さと又やも
一うこハ　幸　紀　出産　おもとうと又とうべ
下女ものもあるべきうとうとうべ
をくやも
一さまで　女房の用　ぎりもろうと女房ぬ
むし　物語　と言　ひも　て待の
物ぐるとものもの
一ものもじ　奇　ものくれあり　うくるものや

ちぶり給ひしものをいつかめのとに見あたるぞと
おぼし給へし
一ゑんとうの武士の夫捕よりくに西国へとさしたがひし
一あるひさに　車まねきて門敲をとする体もする駿河
ぶ屋のめ子共成んあるとつひちるまも
一あすの門を　さ衣ちう爰中れ細とちう給へる
奇のるもしちてくふの書り法おあるもしつぐ
とのんかしおもう成りさ衣へ女あるとかものぐ
らあぶめすめるもめのとれ物いつをちづり
きんちぐうぐれひ給へり
一久しう　遠ちのちどくんみくやも

一沖ちう成　長年
一あまのとを奇
へくとも
一ちゑさぐ　さ衣へやしくれ事をあるべし
一めのと又一人　女の門車
一門ひ来つる　道成ぐあるるべし・やちぐあも
武官奥し
一ひうさ来るも　敷老少人の法奇　二条まて初
てのぬし
一そろちるる　もくやるん第し　道成
一大武屋　はの国ちるしぐ

さ衣のとひのの御小名めさ

一中納言殿　さ衣の新殿し

一さ衣の法　氣色　恐ハ地　高名

へ法出ちまんちゃ　武家の法馬　あ所とやて天武

一うゝやうれ　高名の法馬　あ所とやて天武

殿法　あ所ほど　江口の　遣　ちまで

さと　遣　ちまで也

一ちゃふりのちゃん　撰非遣使　きびつれ　ちまで

ちまで也　武家ちまで

一めのとは　わゝひちまで也　あ身あゞ

川へらゝまいゝ　思ちまでさとちまで

かゝや

一ちゃふりゝ　かゆ殿　けめて　ちゃ人ごとに

あひちまでゝ人　ちゃ人　ちゃひやハせん

あやしき　ちまでゝ　ちまでゝ　ちまでゝ

ちまでゝ　ちまでゝ　ちまでゝ

一かゆ殿　ちまでゝ　ちまでゝ

一かゆ殿とハ　年　地下に　年　ちまでゝ

殿ゝて　殿ゝて　ちまでゝ

とゝんちまでゝ　ちまでゝ

一殿ハ　ちまでゝ　ちまでゝ

ちまでゝ　ちまでゝ　ちまでゝ

ちまでゝ　ちまでゝ　ちまでゝ

[illegible]

一まくさうの遊女ねだる女よみくまれぬとて

一おとこ[illegible]めのとを乳母あるべき所なりと云

一女房あきくさ[illegible]中ぬ傷[illegible]ぬ[illegible]

[illegible]

一おとこぐるり　秋の[illegible]

[illegible]

一うきぐ　[illegible]

[illegible]

一女の[illegible]　さ[illegible]

[illegible]

一[illegible]　[illegible]

[illegible]

一[illegible]　[illegible]

[illegible]

一[illegible]　[illegible]

[illegible]

一我恋をとこ　さ夜をこそ　石枕をしくもし
一あ我ぞ　あをざめたる　ものいつまりあるの
一あるへて　ひろまあんし　源氏りあり
一むりうて　ちぐ　ちぐもて　海ゆるるにみまぢて
一夜さ夜乃　指ふ　ふるあるぞも
一まるみうれ　表　まの　ゆ　引　ゆ　れと我
わるる　毎人　ぞを　あく　も　ま　ぬ　ひ
ぬ　ま　れ　ハ　ぐ　何　と　く　ま　に　海　く
以合ゆるぬも
一ぐぞ我ゆえ奇　龍宮井　表　ぬし　身我　ぢめん
と　ぬ　ん

一ゆえ　ぞ　風　奇
あぢの風乃　波乃　立　海　ま　を　ぬ　ぐ　ぢ　ん　と　も
一ちと　物　ひ　ぬ　ぐ　ぬ　ゆ　ら　く　ハ　ま　ぐ　ぢ　ん　を　あ　ら　と
我ぢぐ　物　を　ゆ　く　ぬ　も
一けさハ又　ぬ　ん　ハ　み　の　使　を　ハ　何　と　ゆ　ひ　て　ら
久しゆん　龍宮乃　川乃　奇　ぬ　時　ま　で　ぬ　ゆ　ら　ん
ぢ　ぬ　物　も　ハ　ぢ　り　し　と　ら　し
一海まて　ハ　物　ま　ひ　や　ハ　へ　し　や　龍宮　の　奇　し
一ん　ぬ　ぬ　ぢ　と　ゆ　ら　ゆ　ま　ま　ま　ぢ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ハ懐姫乃　ま　ま　ま　ぬ　ん　し　ま　ま　ハ　命　ぬ
ら　ま　ま　ま

一ものとて はつ〳〵ハちるれ〳〵感あるもの〳〵で 彼岸(ひがん)
礼(れい)の花ばかりと思ひつゝ〳〵なるべ〳〵

一きを表(ひょう)はつ〳〵へ(り)つゝあさたり毛紙(もうし)あるんも
一男(おとこ)も 志(こゝろざし)ぐんもの〳〵 絵さんもあるも
あるうちけぐ〳〵さたりあやゝ〳〵ぐも絵(かく)せいのち
もあ毛〳〵くんゆゝ

一ものひ俺(ゑび)て 多のものゝ絵物つり 四(よん)おあとハ思
ひどきいゝ〳〵ぬんのひとゝ感さればはんとゆ
し絵人のちゝ象ちへゝ〳〵きとも

一ぐ小絵へものべ表さ感ものゝ懐姫のゝ石食ま
どゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

一糸ハ さ衣のゆめ毛あ毛〳〵さに絵ゝつゝり
あるも

一はつ〳〵ハ 小郎(ろう)といふ人の買得(かいとく)とも 小郎(ろう)を
婿と云ふ

一ものれや 小武(ぶ)後のゝ象ハ絵〳〵きんとも

一ものもも 隣郎(りんろう)みとふ毛ゝをさ衣へ中も

一ものもめのとゞ 絵ものさ〳〵ひもゝびゝ
のんゝゆきゝるゝ〳〵もんゝ〳〵ばりしんし

一ものゝくゝもわゝんとさやゝゆ月あゝじ毛毛
絵 今まで衣(きぬ)毛(け)池防(ぢぼう)とも

一あもハ湯せ あ毛川ハ也ものも上まあり

一下ぎ　源氏の文の下ぎ
一ちぎりあるへの事　くれちぎりさ夜や
一かの文　懐姫のしるし　誕生ありていろやうちる
ぬるとて　おひ出るくんと出りめすや　ぎんぶ
きわぶけるをとぶりのみてちるべし
一くんのうけも　さ夜ふりみるべきや
一ものみ　さ夜はるみらやはるきれどと
きおて二石ちせともは誕生ちるぎぬ
ちるべし　あぶ　ちるどちるめ　ちるばみ
ぬりはひ出るくんと出りめすや
一ものちると　母の母をやまは出りんとのさ夜

此はなし　ちるに母をちるもちるのちるもと
服の字成合ちり　脇やはは誕生ちるもし
一はちる　ちるちるくんちるへし
一んのはちや　ちりひつまと仏見し
一夕書　ものちりの字はちるはけるし
一あの山　秋ちるちるや
一ちる　さ夜ちるし　さ夜のちるみて　三ちる　ちるを
を源ちるるとし
一夕書此　んのはまれ河ちるるべし
一は世の　ちるよりかるめや
一又を源氏書　天　朗詠　みとれまれちるに

はまぐりんと女房乃声聞れ来り杜や力ゆ
んとうあ房奇ゆ　まづ〳〵果てんとう
れ河也

一もの舟　唐泊　くるゝ房りも今ハ枝ゆ
らず舟ゆとはゆ　ねとし　舟ゆ人とよ
一ハ大夫　道成し　ま後ものの関ま舟のあ
なるゝ

一大武の舟り　よ乳女乃あるに大夫ゆとうる
一うひあるまで　大夫乃ゆを女房ハ舟〳〵と
ゆ乳女ゆ乳女ゆ房のんごゆまうり大武の女房よ
ん舟ゆうると後ゆまづ河也

一とゆ房ゆうゆ河ゆ女房ゆ舟ゆんづゆ〳〵ゆ
ゆゆとゆゆゆゆ房ゆ　懐妊中ハ物ゆひまづ
ゆ舟ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
一ゆてゆる　先のゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
一うちゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
一ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
一ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

[illegible]

一ありしおもかげ　さ衣の太夫の[illegible]

一[illegible]　背[illegible]

一[illegible]　さ衣へ風の[illegible]

せてうれやさも

源氏[illegible]の物とも[illegible]

一[illegible]　行幸家集[illegible]

一おもかげの引[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

式部大輔道成　肥前守

道季

常陸守少将

一あにみも　[illegible]

と給へり是の道成よりさぶらふ事也と宣みつる事
あるべしや
一又あれも　道成る事乃屋事ふ人と称ぜ
へ申てもいとさるべき也
一大武屋ようそはそれど　此ハ文大武ハ後宮
り道成ぶ文也　屋ハ式ア太輔ぐる也
屋ハ事大屋と也　そ事ふ
一道成ぶ也　屋事ようぶ事也　ふ事
人と申てもとやせ也
一ぎりさるや　屋ハ和ぶ也
心ぶて法氣ぶ　ふ堀ぶ也

一ひ事　屋事ようおみて、とくの法ハらひ也
一さはの事乃　あわみれくらし事也
源氏文のゆ也　ゆ也と申
一女文　あるいハ法ハらふハ也
播川屋乃上と源氏文の法ハと法ハらふ場
つのよ乃法服の大屋ハ法ハらむあの中文ようら
法ひく時ハ文源氏乃文のあるいハ
ひ法ハらんもつぐ法ハ
一うと場の　法ハらも
まさしく事ぶ事ぶ也　屋事ハ

乃引帝ちるへし

一第乃　女二宮をさきへあづかり給ひんとも

一うしこまうと　はあくら　長年あり　和ばさうとふ

この勅をうけたまはりてあるとき　かのはんぞとハ

さきの乃うひしく思りびとたゝの人し

一まり給ひうるも　大殿の年乃　法ゆかしくとも

うくはずとは　大ゆれはん勅をもちてまゐりて

一ゆるしうも　物をもらられずして　不合ともなばゝ

ぐゝ法門乃法とゆるりたきさきのうみぞうたんり

ふるあんやまゝ歌うをあるとも

一うれうるとまさらして　世のうひゝはんぞ　ちゝめる

又えいをひ給ひてさきの法んも　ゆるりうう

うう勅をれ給也

一さて大宮

ちん帝　式部卿宮　後式部卿宮

藤川の大殿上　勅をの宮母

堀門上　当帝まゐり給ふ中宮の母なり　又源氏宮のめのと

清涼殿　女二宮母

一そもゝうれも

長年　宮中　法門乃法んふあるもさして八部般

にあるをとれどもさしてあるまゝ或ふみもあるとし

一中宮乃　大殿の法女　堀門上の中宮　女房乃ひて付

めをまなびゆへ大文じんなりと心ゑんとも也大文と
ハ宮大后文也
一つ後ようじめて、大原の年人なかるる汗みてあ
まして物て帝北は女と得給まる事うけとも中く
女二文の法は明来ようしんとも
一はるはるべさん　さ文りあるべて月どろうう
らめまく女二文とは法どの心ゑまてるも
一うけうと　大原の法きてうの文なれと女二
文へ月ともまくまりしれどく
一我とへも　我とハさ文人と氏源氏文也　明の法
とと月宮ほどハう文さ原みてあるべうんす源

氏へ文ゑびもまもうじくハ分後拾遺ようとやとこそ
一さばうう　女二文と月ともう和てハ分をまりる
りはぐあるんとあるも
一まくくや　女二の法くくあ也　弘徽殿て位ゑへう
一文の　后月上へまいう法なるべし
一中務文　少将　有明の日遊ゑ筆　弟中将人
姫君ゑさ原也
一大将りくくハ弟をよだあとて　破法へるも
くくちんもじへ良くくじくた将の異ようんと云也
一氏三文ようや　さ文月法月ゑ三文うと心ゑ也

かゝりてあるべし

一寧拙　中務丞入道昭慶門院のと一巻よあやめ
の事ゝをさ〻へなまりしんらうひゝあやめの
事ども侍也

一大臣殿の御方〻まさあ　うへまいり給へる法師
まさへ　まこゝやさんず　（経俊）　して御ものし　此字　家長
うや　女二の宮北御方　乳母也　いざとゝい給ふ
御ぞうゝやとゝ

一あいひ侍る人　女房前は丁へ〻へ給へとゝや
さどもうゝねうり給へ　女二
宮ハ引給ひ　翌　とやゞて　牧みて　外へ給へるや

うぶいちゞ　揚給へ　うゝ給ひ　ん　まうち　給給ふ
物　ふとも也

一みもとのと　法華　初
一かの法ハ　女二の法みてあるべし
一ふうり　中〻あれきいのちもうゝん
とも　分の代　みと　勅　云ありし　配うゝ法ゝ
又いのもも　勅　さとも　さ〻奇
一ゝやまゝ也　さ〻と　ゝ　ゝ
ゞゝ　女二宮の法ん
一ゝゝゝ　着　星
一かの御ゝの　代　〻も　ゞゝ　ん　や

あめのもとにさちをつくしてこひもとめんさまことに
一ぶんみぐれ　若菜　月　見にあらんその日はつねよりも
松はまつ　若のこずれて物をもとめそめたる人　源氏
物ごとにあるものもの
一大えんの法そ　女の御座の法ども　まことさ
そうえんもとめ　ものもとめ　人　僧　そやさん
とそをいひもとめ
一ぶんのごとく　御　帝　死んをはりてとさきの
御也
一きにうとまし　さきの祈を女三宮
一ぶそうこれをう　女三宮と云ほどみそうつくもの

一ものの八幡　源氏　帝のひとをもとめ祈る
発願　ありもとめ　ひもとめ　祈
一つつみ　はるそ　しまとい　ものもとめ
帝　ものもとめ　あらそ　光　もとめ
とも　通　ものもとめ
一いのち　引　ものもとめ　ものもとめ　斗
ものもとめ　ものもとめ
一又ものの　女三宮　法　ものもとめ
御　ものもとめ　ものもとめ
一ものひとの　ものもとめ　ものもとめ
ものもとめ　ものもとめ　ものもとめ

一たとへば　はくさのとれぬやも　名謂
一くるくる　長くの事　葛藤一云　太神宮中　上下畧　長橋
自然醍醐　長く間よ　絶らんと
間もなく　くれぬ　くるくわさんやも　絶る
なくなるべし
一ちちくさ　ちちくし　ハんくわんもも
一くるくるも　くるべ　口のあるゆへあやまち
しちくるくるも　しちくもやまちひうてきぐさん
りのもとも
一そのすがもち　面白　河也　むしもの　名
用あるて動

一ぬかとちがと　文紙ちどつんぶとをしちるべての西
あしぬちるべし
一大将　さ文へさんうぐしさと　おもとへ　面白　あて
うちる　人ぞと　歌　うもまちるべせしんぶう
んやも
一ものふとちし　面白　河也　さハさ　ちくさくうう
ふおもしまとも
一中文　はき　秋也　ちくへと　ハ中うの　はおや中
文はうう　ちくへ　おもし　ちうの　ちはう
ひちうきれて　下くふを　ちと　ハ
一うへの　里　后文也　さ文の　はも　ハ　ちうとさぐう

[illegible]

一はるとなれば　大くさつ海うり　狭衣の段

一ゆぐれ　引そで　我を人なとゞめて　大海のゆぐれた

ゆさうりの物ゝ　はけぐ　まつ

一物ぐるまをもつめ　さ衣乃うりさ　紙乃うりあ

面べし　ぐるくるまハ女二ゑの古物

一くるくるうり　ちて　ぐるの乃くるくるにもくるまつぐら

人ハくれとゝもこゝろて

引ゆかまつ　ゆまつもしてもの　ぐるのうるかう

さけるやまとものぐこ　さ衣ゝくれ

一くるくるを中くく　さ衣ゝくれ

一あ面でん　女二ゑの古物

一ゝ伝さ人　中納言ハ大盛乃めはとのつくるもの

國へ大盛の乳母ハ下ゝ　狭衣乳母

一くるくるまん乃　引　東勤

一東のまつ乃屋　東勤　叱ゝ　ゆくハ面ぐるのぐの寺

みて叶ん母宮の子　まるにさやうりあぐ乃

てゆくゝとゝんくや

みやむ　ひく　あんらく

一ゝ乃ゝ　ゝ　安乃ハ

しへ伝へくゝ文し

八畳に食を特一ぢ五剃髪ぢ五一心金剛

一文の　女二文を狂言ぢ五ぢ五ばうえさ

を云ぢ五ぢ五也　中納言佐の局也

一狂道　紙の御ぢ五ぢ五時如ぢ五　狂ぢて踊をちぢ五

也　女人又感ぢ五ぢ五女ぢ五ぢ五也

一あわぢ五ぢ五　女二文へ後鶴の法ぢ五ぢ五人し

一鳴と云ぢ五ぢ五紙　ぢ五ぢ五ぢ五法をぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

狂可易

一そ生は中ぢ五ぢ五　女二文へ八まぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ひ

あぢ五ぢ五也

一ぢ五ぢ五　女二文ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

一ぢ五ぢ五　さ文ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

一ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

一ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

一ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

一ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

一ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

一ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

一ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

一ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

一ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

一ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

一ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

一ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五ぢ五

うへうまいら給へ[illegible]に俳[illegible]つる屋はんちゃと
[illegible]て法[illegible]ちつる[illegible]めて歌をよまひく　つ[illegible]く
[illegible]めてうとハ中納言佐が事をの給ふし
一中納言ハ　女二の宮[illegible]
一あまもと弱き[illegible]　引出をとして[illegible]のことまけで[illegible]
一[illegible]ハ下[illegible]あまも物をる[illegible]
一たゞさちるをやと　さてハさ[illegible]ぎ[illegible]
あまもをもちふる[illegible]と思ふ也
一うゞと　あ[illegible]のみちをてる[illegible]ち[illegible]
やをぢるをもあまんとゞ[illegible]
一[illegible]の森　[illegible]　[illegible]
[illegible]れど[illegible]
一[illegible]　[illegible]
こさんとさ[illegible]
[illegible]也
一[illegible]の[illegible]　中納言佐が也　あふさうでうゞ
[illegible]入給ふ[illegible]道[illegible]ハ[illegible]也
一[illegible]
一[illegible]の[illegible]　[illegible]　面白[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一雲の引　夕雲ハ雲ハ雲ハ

一月は雪に花べ家　春は月に花盛りは春の四季
なべて
一もんどう　禁中行幸の時乃すり数進也　女二へ上ゝ乃わらせ給ふ
一ゆうてゝ　ゆうてゝ　女二ゝ我身の所懐姫と名付
一ゆうてゝ　ゆうてゝ　我
ものや
一そやいとゝ　きゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　大武の乳母女房
給のもとの　御乳母　侍従乃局　久ちど　ゆゝ　ゝ
らゝてゝ　ゝんと　ゆゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
我さんとハさ家乃局　内侍也
一あゞゝへゝとゝ　我ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

さゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　

一大文字の　大文字乃法懐姫と出やしの乳母なるど四
　　繁して四つも奏しうとも也
一あづくの　母乃さうら也　乳てれるさるすこ
一えりじれあゆこ　故すれ二　愛
一吹ちらし　女　これなす　女三文字奇し
一ほんぐれ　をううきれとハ　浮級也
一うれたびめ　そめ絲なり
一おどろ幾ちぐし　ひあづくハ法といふ
一さしあとを　女二るとちぐち絲うんとも也
一をの　引　藤井寺あさちふのをよく藤のきく思づれど
　　あまりてあどうん人の思つき

一みぐれる扇　めり
一人　きて　これなす
一みくを也　俗ぐ　みくを也
一ふうう　めうも法　ふうを時　れ　ふる
　　きども也
一雲井　まてあひ乃ぐ　人も見ハさ安ふ
　　ふうを也　大文の奇也　三巻乃書也　故文
　　の奇と書うちもんハ下初也
一はれる幾　さ安れつまるくして　まれ
　　也　天文の女二とまつせんとうもひを絲ふ
一ふの法　女二の法　産をさう絲ちんを也

一はるかなるみやこうち　さゑもんれんさゑもんふく
をはるかるもの　反上人ものとものもちろんべし
伊勢物語源氏　唐の故事引用
一たゞ人ものをおもひさて　ふるさとのくさゑもんの
しまをたゝくさゑもの
一はゆうう　ものゑ　狭衣のものさをたゝかひもの
一そや　中納言ゞものをたゝかひもの　乳母わざとき
衣うへの不孤とつゝもの　ものゑもをめたゝとひもの
一ものれての　引奇よとものもの
一きにはんめて　法延中　衣はんと思ものゑ合て今
まゝ法華経もの

一始衣さへ　法門乃法華経中今一度法門へ入ものもん
しゐものをたゝめて人くちごまつゝもの
一ものゝまて　さゑの法印　懐姫ものゑ
ものゑ　はくくのものくハせもの衣のものもの
一きにはれほどものゑ　ものゑ　ものけものくちゞきへ
ものもの衣のものもの
一ものゝのものもの　さゑものもの衣ものもの
ものもの
一まつて四ものもの　ものてもきゆゝものにちゞき
ものゝ衣ものゝ思ものんと思ものもの衣のほど
ものゝくものゆゝ中納言ものゝゆゝばゞ

きてまをしあんものをもとも
一をのれはしらく　引手事
一ものすさまじ　大きうち奥ってちかくだともも
一きちにきりせあ　信云よつり　叱　表層　死
一あまのうてよ　我うち大きちく如ひ
ひつきあき八世すきてずも水の法ん
ひとりかちんきをりハさ安へちびきづくれ
ほしめきも
一まづうちあてハ　まの実あるもしみゆめり
もともとばけぐ我ちひ
一きちひりかどり　尼よ如行りんちを奏して

歌閑ロ世とも
一うちちうハきちきもとも
一きちうく　けぐ尼髮のきうちもやしうもも
ひにうてちきてうても法のちを時のまもけ
うぐ矢きんとも
一あぐちうべし　源氏文故　ちちちるひ
ちばも源氏文ちちちへし
一きちその月　清かの紙云枕草子　源氏中巳川
一月ひきもうゆけ　けぐ矢の天竹川風きもも
ちどうちも
一我ほど　我ほどけぐつあ磐も物ありひハや

とさ衣ん〳〵

一玉藻の海あま　尼へ通ふあのうら

一ふるぐ〳〵　俤うりわぶ〳〵とゐうう

一うゝ〳〵ふる雨　さ衣うれたり

一山せこのゆれ　古物うるうるへし

一あるまゝさや。ひろだうや。ひろだうて稲うれとも

あうびあひみうかうあうあひよりう　源氏宇治で

一まうぎうし　源氏ゑあひしさ衣ふ上乃　芦ゑあ

浦の雨ぎせあ〳〵　ゑううびと雨ゆうきう

んうも天ゑの海ゑ　ゑうるれだも

一雨まゆぎ〳〵　源氏物ゞの巻をめくり

一ゑれとうう　むう〳〵はゑあうべし　紅葉人　聚年

一ゆ〳〵まてう　清ぎとあうんと月清んと云んも

櫻ハ富ちれ山もとも　也

一雨ゆ〳〵　むもゞゞ乃　祢いで

一りえわゑ　狭衣ゑ　奇うれたり

一ちむ平等大会　法花経乃　美端也

一ゑうもいまた　毎あゞふ断也　口傳ありさ衣

中ハ初ひもあひ　也

一ゆゞさものうれうもやう

一雨いうう　源氏ゑハ雨と物ときゞとあり

一りてちやまも　さ衣の法母　衣うの法ゑ

てちやまさせたへらるやも
一そのまゝにて人にわたらんうとゆゝしきおぼゝえんなり　さゑの内侍
一つとめてまゝ　こまゝてハ　何ちやうべし　源氏の女
北方自然ハあるまゝ　ひつ　ハまうしてもくらはせゆへあるまゝ　歳ゝまゝと思ひ　桜ゑ
言べしと母女の給ふやも
一わらはを　母うし
一をゝへ　桜ゑ　源氏女へをゝへとて　女よ
ゝ北方ゝをもさゑ　足を給ふ
一ゆゝしきかゝりなれ　めすにさゑ　をゝへと

一あのめ給ふ　いゝ世　清墨をせばゝのめて久しき
とのまゝ女の方等ちやうべし
一ゝかゝりをもさ給へど　光母女の所
河也　まゝてゝさゑ也　の給ふ事ゝ
をゝへやさでハとて
一末の世ゝ　清をもてちぐあ所ごとくあるあ給
ハあのゝぐゝとも　源氏女の代ゝさゑより
一そよ内ゝ　さゑ奇し　小藤ハさゑの方ゝ
あてゝまゝ女の方ゝ　をもをゝへり
一みゝ　引　那波浮乃ゝ紀者乃ゝ　ゝあ
てちの世代ゝ

一ちやうちやうあそび　ちやうづくさあそびのことに書き
源氏文ゆへ　一百一さくとも　ちやうさ同し
一ことのはのやうにひちやづく　ぬしのをとろうるる物
とそいうて　はなをぢるとてまつ〳〵せをくりあさ
ほれ　さ衣あり　めすまくちやうとうへど
我をハさ衣也
一えさぶ〳〵　あくちどちやづく事あるまゝ
ちやうも也
一うちそむく　源氏文也
一引やり　さ衣のあるまゝでもの世ちとあるゆへ
一いそや　源氏文はをくりを公ゆとも

一さ山の　はくさ山　ゆ山　山ぎくれぐ　思ひ入
うりハ　ちやづくとうり　された大夏のはんちやぐ
ちやうさまあとも
一たゆめそ　りの　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん
ちくそ人ハみまくちりくれ
一まいのかくらを人々　大殿の乳母　妹ちやに
ゆうをへあとも
一正月　上流　そ　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん
しめすに　面白事ちやうます　ぶ　八さ　と云うくへるで
あそ　ゆう　ぶと　ます
うちちやうさに物ものとも

一[illegible]の　龍田井　[illegible]の殿あて　延喜あり[illegible]
[illegible]乃さ[illegible]ちんを[illegible]と思ふ也
一[illegible]　[illegible]ふ[illegible]
[illegible]　[illegible]
一[illegible]　そだへ[illegible]
[illegible]
一[illegible]　龍田井　[illegible]の殿也　我をいけて
みんと思ふ[illegible]
一[illegible]ふ水　あふぎ[illegible]
一[illegible]　[illegible]
一[illegible]　狭衣[illegible]
[illegible]　狭衣[illegible]也　源氏乃[illegible]ん人ハ[illegible]

[illegible]
一[illegible]　[illegible]の森　源氏の[illegible]
[illegible]
一[illegible]　[illegible]
[illegible]
一[illegible]に　唐[illegible]
[illegible]
一源川[illegible]　狭衣[illegible]
一[illegible]　女二の[illegible]　[illegible]
一[illegible]　[illegible]

一ものぐるはしき世中かなあまりうらやましき思ひ人のもてあつかひ
物ものくるしかりけるなり
一ものうまき面に　又女こそさえ〳〵と思ひたるべし
一大將のこゝろ　さえのこゝろをせ〳〵とめ〳〵出されても也
一むさしの　引手にて動ゆるされんるべし
一他の中まや　引手寄事動　私動まで有ざりし他の
中まや今なん我まゝ有のるべんちまる
一いとゝくるしくて　出家ちゆりくはやるゆる
一さとさえ〳〵中　殺也
一こゝろ　女こゝろ　こゝも　このもくぶハ部屋井云
のはなつかしき　縁せもあ〳〵ざとも也

一ものぐるはしき　物ぐるはしき女こゝろ　ものくるしかりけるこゝろ
ハ部屋こんものもとも也
一物ものくるしかりけるこゝろ　物のもとくるしき也
一中まや　中まやと思ひぐるはしき　物ぐるはしき　或こゝろ
いとゝ　いとゝ　中まやの法歌を天王又法勝寺
しくはんなる也
一大やまをもこゝろ　こゝのもの来あのもしうし
もこゝろもこゝも　こゝあり様ゆくはりひまる
きゆかえまで或とてもいくぐもの句　さてこゝい
まこゝのこゝはみも思ひまるれめとあげこゝる
て法歌也　面駒

一殺院　女一宮也
一さはりひ　さ家へ女二ととも出たるとも
一わらはを　ちなくれ孫たちもさ家よあづき
ぶりんせも
一ものふんとちる　天子ゝ出家也　独位ゆへあ
らんと物がめ也　ゝ八生ゝ法遺言あゝ
ぢをちるせあゝ　ゝ
一うちうり　一巻ものを須しあぐうゝ物也
らるゝん也
一殺院のものゝ
一さゝまれ　女二ゝ入通り又女二とも

一独りそよ絶ゝ
一長家のみさも　めぢめて左義みもはづの塚を
物がめやりて長家の法名中ハあまれ
ちるとも
一女清代
一ちき清のゝ家まもあゝ度あゝめと立并よ
一我をハさ家也そくのゝハ源氏家さんひうも
ものひゝり物と爪ぶ法へども物のゞまもゞ我
習しうゞをとゝ家とて引ものゝ大納言乃
君ゝて狭家より法へとて指出さゝも
一志のゞゝ代　狭家奉し日法典ゝ我と我了志

のぶらり福にあらうをとやかやも也
一ちりしをやうやとんかんまりけ連も
一はるもとうぐにたう　山へあぐらでと云ふるべし
私勘古今　もその心樂をかんそぞうみ〜はく〜爰
人ちるもちんをそぐとそ
一爰ぐへやせんさきんぐちわぐをあハ野ぐ〜志の
原萩ぐ花ぐちやさ云達　催馬原
一ぐちうはと〜て　上畧ちるへし又祖ちるとそぐ
しちのんも也
一うれみの〜　古和歌
一三秋而宮漏正長空階西滴

萬里而鄉園何在落葉窓深愁賦張讜朗詠
落葉題下也
一秋宮　秋ぐ也　一五八一条院うれさ也
〜ぐちうちう大膳うるとまちるとまちるとまちる一条
ぐ也
一文乃法長　源氏物也　神代ちの奇八塩川
爰の義中にはぐ也　奇しんぐうれちる
一ぐち中〜　さ爰ぐちう
一あ〜ぐあ也　門奇赤動
一ちう国乃中　将　故事赤動
一大武　西家して三河へ下し欲

一まく、文ハ　紙幾ゟ如何様ぐらいなる長さ日
ゟぐらんと物ゞ　ちげくを無理ハいろで文ハ
さハゟぐらんとうゝ　絵ゝ思召を想とろ
しくゝ絵ても
一尼ゟ　ゝぎん　ゝ　ハいろでおがゝ　ゝ
らんと　紙ゝ　ゝ　ゝ　尼法師ハ出入　ゝ
物也　命　ゝぎゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ぐゝ　ゝ
一神山の奇　志のべゞぞハ　ゝ　ゝ　ゝ
物ゝも　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
一大津の　可動

一ゝ　ゝ　ゝ
一ちゝ　ゝ　ゝ
一我意の奇　ハ　我意ハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
一　院　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
一　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
二　ハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
一　ゝ　ゝ　ゝ　ハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
一　ハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

あゝとらるゝ也

一ゝ法流ながゝ　氏世ゝ有ゞゝ人じとも又通世の
人ゝ有ゞゝしゝ氏ゝ有ゞゝ　さ後うてやのてにいるれゞ
一大将の宿屋下わゝ　氏文字入ず可ゝ為ゝ
一人ゝゝ野ゝ山ゝ　引ゝ川ゝ山ゝ世ゝ代ゝ人ゝ
ゝ野ゝゝ山ゝ山ゝ　ゝまゞゝゝゝ
一度ゝて　源氏乃ゝ氏ゝ代ゝ世ゝ
一みんゝ　歌流へさ後のまゝ行ゝて也
一ほゝらい　楊貴妃を含めり源氏文を貴妃ゝ
歌流を蓬莱ゝ　ゝて也
一ゝ度ゝゝゞ　大文八歌流又一条とうけてゝ

まゞ乃さ後の法　独伝ゝ法ゝ也
一三文の法ゝ八さ後乃法ゝ有ゝ法ゝ　歌流
ゝ女一文ゝれゞゝ大文ゝ　ゝ也女二文八法入道
三文八ゝ　歌流　文法　婦　文八一ゝ
一弘法大師　入定不三ゝ　晩ゝ法ゝ
一我ゝさゝゝ　ゝいゝゝ
さ後の河ゝ法ゝて後ゝさゝ
一ゝの川ゝさゝ　独文奇し源氏文ゝ
ゝ中ゝ也
一ゝ法ゝ　同ゝ
ゝ八ゝ　我ゝ

悪日[illegible]くらん 古今

一 如を[illegible]みるべし 乾[illegible]并 [illegible]のうちるべし

一 うきさ舟のあとう 狭衣[illegible]うこが[illegible]をしへよとも

一 [illegible]人命終 善[illegible]不[illegible]法花書写の功德[illegible]

うして天より[illegible]絵[illegible]人命終當生忉利

天とうけるとも

一 くぐ石山とぞ 式寺汐引石山よみうるとも

一 寺の堂僧修行者

一 [illegible]汝当知 如[illegible]法人等 法師[illegible]唱也

是経難得聞 佛受者亦難 如人渇須水

穿鑿於高原 猶見乾燥土 知去水尚遠

漸見湿土泥 変定之知近水上

如是法人等 不聞法花経

我尓時為現 濁浄光明身

若説法之人 独在空閑處

讀誦此経典 我尓時為現

若忘失章句 為説令通利

菜王汝當知 去佛菩提甚遠

同一[illegible]

寂寞無人詳

清浄光明身

一若菜をうえたりしを　投もちる文本ちるへし
口傳なり　源氏の文ちりをかくめ所ちるを
一うしろ髪　大屋毎　文ちりたるべし
一寺　時　月寺　天の紙　時　月　月みま　月　憂人
ちるべ文ちるべ
一文　さしはさるもの　源氏の文ちるべ也
一ゆかさうし　紙　ちるべ也
一文箱　月寺　時　紙　ちるべ
一人のや　文ちるべ
一ゆかさ　人　ちるべ　道　もるべ

一やまの川原　方角　未勘
一すりぶつのひ　法華経せるべし
一宮やまを　湯あみく法養性也　信ずるやまと云ん
なるべし
一阿私仙人　くも目の法師を作し釋尊因位の時
大士として法の為めに位を捨て阿私仙人と成
て法花経を云給へりさて千歳の間菜摘水汲
て仙人を供養したてまつる拾波羅也
一つまがち　引六　年をへる源うんきゆうハ行ゆく側
乃滝まさんとや　和列あり
一あつまの　乃形東也　池の玉藻とハ

猿澤を当来あまぎてんうねめ入るなり
一忠草　法ぶのもも也
一歌宮　女三宮也
一菊の歌院　女一宮也
一やうく信濃の墨
一二宮うまれ　源氏を云
一をとをかの宮かくと云説うう塗れ涙也
宮と同心なるべし
一おうくわくもとも　歌院也
一さぐれあんあて　入道の法門をはぐくぎ法くと
しして天あくし女二ハうりうさや法師也　繋ぎ

みづからとはさらば髪乃髪也
一うれかりをかなり　かなれあるしきてを女三ハいろやうに
ものがりもたるもの也
一めさし
一ちりはもると　女三ノ方乃古物とも　ひん張絵ようき
給へり
一かうのきはゆる　もうるを入道の方乃中也
一ものよりうるはれんぶつき　母ノ方のはんを思食也
一うれかりや　母ノ方をもるくるあるを入道ノ方あづく
へ行へ給ふうれかりも也
一あるめよハ　あるのよの恨もり一ノ方乃髪のあるめに

しづうれかり也
一はひとうハ　中納言のさ衣乃法れるを法師じ
てえもりもさらば　ものとも
一ものさるべし　双子ノ恨
一まことの法ノ　慶ものまことの方ぞとハものがしめさ
ねども　養母の法たのにハさとありくよめくんと慶
乃法ノものうれども　そてを陽養子ハ同ものもるへし
一母ハ　内のもと　実の母をハ法師ありしとも　駿川慶
いひ給へるもうるあるとものもの　ものもの出也
の法ノものくハものうれ法ものんとも也
一さきいの方と　古改古良　後一条院古御文　一条院女院ものの

一かやうのゆゑなど　大政大臣
一ものがたり　それハ堀川殿也
一やうの話　天子の法名を尊と女房の
法號ゆゑ故院崩御　已後ハ花くしさうゝ
四日入ぞ乃去堀川殿の御ぶくハようゝんと也
一ものとさゝ　堀川殿まゐりあらぶ女房の法名
あてやさまてゆゑ　一ゆゑ故院をらるゝ也
乃御ぶくよりぶくしゆ　ハふぐ也

一さゝんゝよりゝ
一ほきゝゝゝ　さゝ女へ仕らるゝ親也女房して
天子仰らるゝと虚名也　ゆゑ者の法名をと
ゝさ衣乃詞也
一まやうれ人を　ものさる紀ゝ琵琶ものゝ
ゝ給ゆゑ　今姫君ものさゝ
ものゝゝ出ゝ也　羽ゝ也
人をゝ　ゝ
あゝ也
一まゝ　次ゝ也
一まゝの馬　牧馬ゝ神ゝ

一かりんを　ゑ髪とて上ゆん也
いつべさとこ　いつ所姫元のんも
一さらじ袴　さ女法出の時いくとたくさてるこそ
毋代服立しる也
一かりさて也　さ女よりかんりる帝を東流の
うへ方あ行ひしうと今姫君まれく山名行也
あくとも朝ごくし
一吉野川あふな法ゆいと也山人の兵ある名
のこまのぐれて　あれ毋代帝をそれまく吟じ出し法
へり行へる後までさ女のんも　ぎにんの高めり
やうみあるりくんゆまくさ女の法んも又帝

一吉野川くく　まくさハ又也　源氏本橋
女又くく女かく女の等新元　さ女ハいとをの
也くをを我あづくわをを行へり
一流よ入立と　とがあるまづとれバ一をくるまん
をくるし行へり
一見ん結をつるを　かちでとと肱をてはくめを
でさくるあぐくつくち巻をく　あづまくハひや
くしうりさりぐをとハるど法そめハかそ見也
たをうりく
一おくしあげ　甲しし元

一ぞくに一編よりうんりきやとまがりめさんだらも
書はんるべくしもし
一ものまんだうしさとも乃ほんもはくまうとうり
一女院うくう　東院のうの乃ほんもはくまうとうり
とはとは姫君よりのりとうひはさあ間うまんだうり
里うはとくにも
一あつちもを絵うり　未勘
一繪よ黄代　柳樹を　まの合ようをざめれば乱
うるもも不失　えりあうこう　えりくうるごとく
也源氏未摘りある河也
一わがはんり　世代のんもとも

一よのつもあるもも、さ家ものもも、人の文とハ紙合井
へ西絵ふ文るるべし
一うふ絵うるとの絵へも　文るどうひうくさあ絵
をもも
一寄紀人の　源氏物語乃巻の寄よかもかもう
もとんをの也
一切まもまん　引寄未勘
一まの巻ぐら　引寄日記とうごこ、ふもまうもう
まの巻絵うもりまりまかりかへも
一もの扇　那るる井乃今もの対まもの扇也
引寄陸奥紙　ものもの山ままれがりひいるあはさ

つくぎんさを きり おのありうへ 揚屋 処へくるものなるべし
一 おびあくしうりし 懐姫 あるくる水を入んすきこと
しく志れとも
一 そくう 百日也
一 人のあるどふ 引手 人乃親れ 屋敷 周りあるねども
ふ 鉄ゆふ 通 りまどひあるふ
一 遠山島 あるでそくあるんも
一 あるりさうりく 源氏 物語の巻よあるる 絵
引手 まもまたぐ 廻りのあるまた 晴 あるくは出る
仕 定 郭
一 扶の文も さ色のあくくるれんるるべし

一 云何女の身速得成仏 提婆品也 舎利弗 諸女
よ 対して五障の女乃 為 てもやりて仏よ 成
るるあるまじきとの 給 る 河也
一 つぐるのこと 獄 と云 山 沙 者のあるこるひあも
一 右改太 右 法 純 走 ちる
一 ふるひう 堺川 殿 法 也 と 東流のくるる
給 り
一 ちる 比 字 扶 天下 八 ふ 比と 墓 あり
一 蘭 かふ 乃 あ り そ じ と り の 面 よ 八 を よ
ぐとのあ 流 し 教 を 方 メ と で 浦 通 とあるう
て う 国 の 寺 領 と も

一月にとれと　あるゆへ　一条院
女院　後一条院の母　太政大臣伊女
姫君　後一条院の御妹の姫宮也　ふよ奴給
女院さ宮のはらくしのは息女へ給者歟　元服を
養給ふ
。後夜　つねとはらくてはらり給ふ
一賀茂の川ちを　女院しおうぎとり一条へめ
拍命姫してはらく通し給ふ
一一条院　一条院　北方　姫君也　養給ふ也　一条女院
おはしまさ　若宮のまゝ　また一条宮と女院住里近とつゝ
一ちうさてん　中務宮　姫君さ宮女三ノ宮　ふ秋のもし

一やうを引　まの所乃やうはあやあり　梅花
一指大納云　東院のうへ　北方一ふへんの事なり
一中納云　母八内侍乃乳母
一大納言　時ちうの人よ大臣君なられさるを
ものもし　後大納言へはきちゝ大臣へ人ひくとも
分をとらるゝ也
一みづく　是年　さハくちゝ　是さうん人
のやうとあり
一ひくらびぐらあへる　あるとあんの河え　ゆとと
云ふるべし

一ゆめのしやうの　男をうらめしがりてあるべきさまとさとる
魂りゆめれ　をとこをうらめしがりて
一されたるもの　あてもなく　堀川殿のかたなかをあるべし
一ものをうり　さハ
一いなの海ゝ　物をあ　あまれうけちまやんひとつを
宝をもめる
一ゆふ又ゝ　八道文とハ何とやらん自他ゆゆさ
ふやうちうゝみ一ふの文あどハ九ともさて后
ゆめうちうと　上下略
一まんなのあまとちうを　八道の文ハ法ん也
一荷ぬし　寄あり可動　物寄と云ハ別文

武筆鬱ゆ　ちる紀女あるの我ハ
ゆゆ物筆降るゆ小女あり　を養ゆ貧
女ゆ孝あるて荷を摘て　を　ゆる重紙たゆ
紙啓ゆんむうと　ゆ故事不　ゆ養母孝行為
也　私ゆ故事不　ゆ疫只ゆ物の叶ハるはうゆ
一りうとうづゝ　母の漏ゆ我は強ゆてをうゆ
と　ゆうゝざるうんとゆ也
一りうと木の寄　狭衣也
一思うとうづく　接ゆみて文ハ紙八文文作
らるゆ　きにゆ文とハ八道文とゆ自他はんゆ
ざるやうゆりしゆ一ふ文ゆとハ也

一あるひのあるじ藤原の信実入道[illegible]
一さいふまるれることもあるべし　つぐふ石とも侍
[illegible]
一もしぬべき　むりしあるべし
一ぞふさいて　大ねの入あさめの好みとあり　先
さきんげさいでかうあれどもそ又をいまいま
侍べし
一いとうひる　あるをけるるをもんるるをあべし
さるもてきんばいてやうと
一みぶのはたにあれと云ふるばいてやうと
りうそうしまびるをく侍りる関の戸をと

侍べるてと通とも
一いうくまめぶちく　むりーよ云あり　侍ふとし
さ家のたりたにありひるると紀ふれ前を今
も関ふるも
一ひむりへあり　侍ふ　ちふふし
一ぎに独みはたまりめ引奇　はめぶも独代の[illegible]
如ねむ小人をみめめの源也りり寺今
一はけりう　奇れんを時し一ふのまめりまりめう
未あすハさりを侍ふと云ふ
一あれかりう　独家也
一奇ゆう
一奇ゆう　みるれ奇何也面白ふしとりうく六ん

しゐはるがつくこゝろもまくのごとくこれあめ
ハあるまゝさくもの
一下萩ノ葉きえ[illegible]とびくとんだ[illegible]
とくるべきとをもとをもらまめ
一夏ハ　秋とちらくゆへ風の吉あるこゝろ
あるこゝはまくまくるもの　なまりの寄
うりくちるべし
一猿ぶみ　一和の家へまつり給ひくハのれんも
一ちたにの物くろう　長年　古物清るべ
一うつ[illegible]た紙　入道文濃紙みてれた筆すさ

ひの寄
一世もつて　そもゝ一世ゆく源氏文ゆへ入色文みとも
一人ゆもあるひ　目果と云ふ也
一さるぶむ寄　月寄　秋をぶた物屋ぶで皮ゆるるた
りむ寄紙りけてきつ
一巳ハ　まゝ若紙　朗詠上雁下ル　碧玉世
鉛立柱青苔色紙数行書　菅三品　筆と紙とハ
一天の時くるに沈もて柱と書とハ外ある雁ル沈もく
一さうゝ巳ゝやハ　入道の文へも　[illegible]
一ゝ筆文ちるべし
一屋の心色筆れ　[illegible]　[illegible]のもゝひつ文をゆ世中

八くらんこ

一あるのぢう　たまつ狩　たまつ狩

一ひのひこやや　篠八一条院一ふ手枕もんかりにた

ゆりハおちかゝりてもくるくるとうるまざ海とも

一ちぐ　一条院ふ浅茅ふ手にあるんとも　今あるハ

一ふへのゆ院もうまくなりがゝめすを　洗濯院ふ

一海とに　八道ゆ紀時とも

一まぐまくぬありけさ　さ夜ふけよりかれゆ

一院ふ月　一条院ふ一ふ文八ふ女也

一ちぐくんくん海月ふ　枕草をまくくみをて　唱歌

八月ふ八九くぢて　ものさやあさ　さくのさう

くく目ふ月ふくねとともも

一をのゆ如まざり　伊勢が歌さう文ふ紅ハ如ふ

して三ふ　ちうゆもも

一文をつをもあて　又ふ月ゆある（きにおまて

紗ふ月ふつを弟とも也ふんふ入ざ海なうべ

一恵ふを花くて八ん白ふ月ふ八也

一をとう下ゆくく世代　牡位うて月ふあうぐさ

也也

一ふのゆぐさ火ふも　又八道のふかもふ八ふ海ゆも

一さぐうをあゆ　八ふの文八ふ

一家（むらのや）ハ海ハ（さんのまた）巻の三ふ　ふ八文八ふ一ふハをとう

絵くるとも宝の八幡三所可勧又異本八幡宮ニ勝給ハ麦三束氏宮ハ思ヒヨトヒテ如此ニレ給ヒシトヒ
一垣ちかにかゝる　天の文のゆくすゑおよはれ天くらし
一つやさだられ　高ゆる如絵くるも　絵よゆへさぐ
八の花を入る宮し
一かゝるすうハ　大方めく絵くるこゝとあること
しゝやもゝくもさはいへどもあちこうて
ちゝばとおかゝ　也
一くやしと　度をらゐとかげやさんとし
一びをもとゝくく　絵ゆをかくくく
てさぐ人をあくんとも
一ちゝ台野の　あるさよ宿とぐ世の憂何よかく

きこんをん
一よをもれだ　ちゝくく　花の根　束勧
一度八日とり　如来と度と同じやうに一ゝ
はうとくくし来とくいさあまくくもくくまあくし
一菩提八清　清涼殿の　引　諸経を　言てぐすも
一をのごま　引　弟子ある人をる
一ゝれをかうのとう　道野ぐきひハ法ゝ
一むさゝ野八　蔵寧相度へ　弟子
一女院　あをとうの姫　さ良の山ゝ
一初くゝ　ほどくくの　法師

おしらせ

一 引歌 ながれあるハ深せちるまだやまと海はまの塩焼衣海
ど衣ちるらん

一 八重ゝ山の 引歌 さ衣

一 思ふ歌 かくれぬ 汗衫

一 あをうちあくく

一 思ひぶり 入谷の衣ちるべし又一品衣袖

一 ゝけ入こ歌 ゝ歌

一 かくゝりゆゝ海ゝく 一品の衣乃法ゝ也

一 衣あづく さ衣のゝゝ也 ゝ衣

うゝくしゝも 同

一 ゝ乃ゝ又ゝゝ ゝゝ一品の衣乃
法ゝ也 又ゝゝ ゝゝ人ゝ衣ゝ法ゝ也をさゝて

一 ゝゝゆゝ ゝれゝゝさ衣乃ゝゝゝ

一 ゝゝ末ゝゝ中ゝ

ゝゝ末ゝゝゝ

一ぜんかいのうでうくはんとあるそ 俗も 俗稼俗也
私 女院の法名也の給りたるもかちうどてあとつぎを
てことを案内はくいひはぐ者給也
一宣旨給る さ衣の内くと云る此女院ちうたつ給つ
とも也
一あまうくく あまゆる 倍倍也
一はゆくあるくまでとも さ衣のん朝也
一又いたに 女院の法名也
一院の法名 さ衣れん さもあどうあわとぶた
あそ女院ふくまを女子れ法名をあようんとも也
一かりこゆくハ 女院すてハ淮ぞゆあとあるひ

ふくさ衣のいひあるし給也 さ衣れん女院ふく
の法名ぶ ぶたに ぶりさちあうひるるべられた
ともあるひふいつとも 常ふてと云ん也
一うちつもれあるとも 決あるぶてとも
かくうるべ常ちうたとハ 面をうんとも也
一いたハ秋しを 女院法名 独よりもとやさ衣
の法ふるれぶとも也
一院ちうちくれ さ衣乃法名とハありもられぶる
一みぶくれ 天子の法代ふく大度（ぬ法せるる
一あちあるし 炭ぶ
除代ふちれとだく

一そのうつりあるもさバ母　さ衣の御母あり

一ゆ衣ものさ　さ衣乃御母あり

一さ衣ハあるべし　入道文法師　法師　邪教法宿執

とも　ゆゆしぎあるべし　一品宮　一品宮　のゐしがさ

らもけるゆれさあ　あり　ゆとゝ法

ぎ　入道宮　初行ひ　ゆ

一入道乃宮と　あ　法師　法師　任ちゐ

時乃宮　入道の宮と　あひしるゆ　空

つゐ　ゆ

一　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

一尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼

一小宰相　小宰相　一条院の女院の官女さ衣ゆ

常盤　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼

一尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼

一姫君　さ衣の御母　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼　尼

のゐ　あるべし

一ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

ハ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ

を多くみを行ふ所也 [illegible]尼ありんと云也
一度ごち 摂州度かちも
一秋院 賀茂義へ大ぬおりまちも
一志のぶ 源氏文へうぐれ初行つるとも
一妙ぎんまう 浮線綾
一ふねぐ〳〵 一和文に猫をひらべ行へり
一紫雲をぐ度多 別奇歩御
一ゆうもむつび 一和とさ安ひとも
一おのおの さ度 源氏文ゆへ通也もちんと常〳〵
一仏ぐ〳〵也
一ふれとの奇 一和文歳寿とよ人よ不叶を源

氏文ハ人のんつをこゝろ白らんとも也
一七僧 七人僧供養也 源氏よ玉鬘 奥散花ちぐセ
一ふ〳〵死ふと 夏中の奇 供や 威儀師
一吉野川 おの奇ありべし
一ちぐ〳〵 死おの山歳奥つよ自水ちまも
むこ三定川ちぐんと也
一塔如金色 迦阿鼻獄 東方一万八千世界の光
如金色法花序和事也 法花経と説法ぐんと
ての瑞相の中也 仏の白毫相の光上至有頂下
至阿鼻獄と云也
一仏ぐの 善哭の移川 [illegible]ちべし

一もののうらハうづくとやうそんくろとそんやしたのかく
ハ百万やし
一おとの雲をリ寄　蒼たりとそんる山の雅楽の雲ふく
ハさとも雲をかそしじ　私ハ百とハ十くりの雲
とそんくの雲とそんるハさもやきん花海鉄
一たな紙あのむ寄　くれる
一うるとあそん　さ安の古寄　浪浮木とも
一あんちん　此河此物語よりざあんとそんや
さて一品文ふくまり結へうどくりもそんる
ゆへんりそまあうやとも
一うすたい

一さんそうさうかんれうそぎ
一茅の物せんまう
一髪ふあそ笑うるとあれ茅花抜るのそとそ云ひ
けるぶ　此寄れん紙絶付うそ　波うるそとハ
波りひそあるんあども
一あ紙面まくまく　んやまさも
一さいさそ
一やを茅　八百万神　さ安のあし
一をのまつく　我のそあうれをきど川あのごとく
我光ふくあそまさんとも　源氏安の伊
寄也

一さる程に系図の物語　さる程に源氏は紅の面
紅やとよりて桜とも枝をもしわりをれ巻にあるなるべし
一つぐ勇　清盛　源氏
一を紅ら　根細立可下
一切りあるとハ　時分見るとこにきりとハさる
り時分をあずしくしくや
一かくて神を崇られ給ひんまく給らんあくと
し給へ
一ちはやぶるかくり　切もあるさへ第人のむひ
ちんもちまと所とせざるべくしく
ちやも

一そもそも車ゆくとも　さる所の出現し　車みてもゆ
ゆくとも　されとうちつ面よりしさ河也
ちびうちはるくるくんあさ紅まくんやまくな
ばしめもし　なとあしくあるる紅ちもさる
の出年うけあるを恨給ともさも所人と
あしとりんをとせ給へるし迷ゆまでさる所出ぶ
紅はあるる所ちあるみの紅ちり
一ちるちびうハ　さる寄也　源氏八宮のちちび
一ちるやハ出自の出ぬ所を無流へとうれう
給へとはんちびとて系ちに給ひもしうへのう
ちやハ切りんさへき菱堂のぬ

よ新まるれば
一はる流るるハ　流るるのはんるるべし
一ふぐうう　ふるるのはるのあさ夜ともたぐへて
あるらしうんともなるぐさ夜ちハうんよう
でんあくと心ともぐれのはんを秋流乃
一系の文りもちまんあるとと心ともあ
とも秋流　突長への法法りあるまとと心ひ
おさんとたるのもの心ともし
一ぐうよ法こぐん　大夜とたるのはるりもちもし
一ちとつ来ふるうびぐ　さ夜のはんるしんゆるる
とハ器んるのむとと心ともし

一ぐうう　お秋流ともはは出ぐりとも　前秋流とたる夜
とたるのはるりめちもし
一たるのもひちるちハ　はお家のもとし　ちやよ如法ちも
ん法ちく天るる心ともし　おの寺ともし　緩法よ法ちひ法ハ
一如の船ちもひ
しも同じんちるべ
一あるぐちう法やかるるを　八道の文りはるる
ちもし　法上ハ山ちたとりちん　枕綱ともし
一ちをとりちもし
一法上のちる聖れ　ちるるあるとあれぐる
お秋流ちたはんるるゆるぐちるともし前秋流寺せるんちるあ
ちるるるるるるるる

私ニ大將ノ思ヒハナキ給ヒ給ヒ法衣ノ我ガ物ニトハ
思ハデ天ヶ下ノ事ヲ釈メキテモテナレ行モ如何ト
思ヒ片尾心ニクキ法勝ンバ天ヶ下ノ恐ニ入ル

一志のぶともぢ　あの字　りわつ
一うくらうこ　ゆもとやゆもあらに結
あめられあばとも
一文の中将　後式部丞　のちのちの
文中ねのいとこの姫君　さ文乃は結の対一の文
とこ結へり
一文ぶうう　さ文のあめ結へる乃乃ひこ
人ちまびねひあいこ　中ねの妹乃る
也中ねの　ちぐら
一ゆ　妹の方りむまひ　ちまり
文の中ねの字

一ねぐまとて　ちぐさ海ちまうまはあるまぐ　ちれぐ
ねぐりいぐそぐ　ちるくさあんとも
一いふとも人り　引字　手動　ゆるまるけあ
の字也
一いんぐう　ぢ海ちまうそは通せのんゆへねあれ
とさ文の結らるも
一ちまこ人ふ　妹とも
一ふ志の社用
一ぐちまみ　さ文也中ねの妹と　ぐ
一人ちまけ也ひ　ぐ　ちまぐりとあちんあるく
也　ちまよちまこむ人ふ　ぢ

一さ線ゝうれ入聖の薄墨尾花のはゝゝうつもう
ゝしきうん
一さ海くれ沖の光の中ゆも出年沼絵ちゞ絵ゝうるゝ
一まゝくゝともあばくくるゝゆゑん。桜あゝくも。秋風
ゆゝとハあゝへ桜ゝぎ線さ衣のゆゝを紅ゝるゝとも。衣
中ねゝ
一ゝゝゝあゝくゝ。さ衣のゝゝゝくゝ出んあゝぐゝる向
衣ゝもゝあゆじゝゝも同人の音
一ゝゝゝ衣ゝゝ　秋萩をゝゝゝる風乃吹ぬれゝゝゝの
ゝゝゝ

なく廻向の文也　我不有過業・今世若過世・
文見ハ功徳ニ廻向佛道
一文を佛の　為文乃法縁也つぎやうら稱んと為
宮也
一うれうしハ　若宮の神ちりさせ給すて句
一うれを牧ハ　かしとものうさぞあるをハ不動為
ちりかんとも　へ通文不動へ向て物りまた
西のまとさ衣の　仏らるべ
一物をこの　右物後ちるべ
一うりられし　掛鉄ちるべし
一月をはんぐに　ちきあまへる寄也

一厳うを記　さ安寺也尼といもんあ也
一うふまをも　ば物後りあ紀縁也
一紙ぬれと云　右物ぐりあるべし
一弥ちきうに　入通文のは人年寄し
一ひうしく　源氏乃文へちり
一八年　乃　岩ハらあまとあり株ら
のあ　八年ひうくあ乃　後悔ら　さる時ハらあまハ
縁のうを　ハまも　杭を悔ってし　立加ティ
又立ひうひそ　ちれで岩るもう紀先
ひかつよハ　九ちあんとちり　さ安寺の
一坂のせれ　逸　坂の世れあ　ち紙あのまんと也

[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一

一切ぼろ者なり　如来の御一さい文字を八万とも
一あるべ一さい文字の如くなるひかりなり
一ようずの如くなるひかりはるかくまを照
一切のふさ房を通せのるなり
一法華経の如くまはぐらまをまるまる
ぐぼぐぼせんれ
一月の光の
一世間不審問　随喜功徳品法花一念信解
功徳の格量よりも
漢の野馬ゑんもう
世間不審問　如水沫泡焰

一大井の物語　引手あまきりし源のりつくちりゆくハ
一世やぼうもんん　やはきゆんけやきめんん
ぎるめれバ所詮院の
一寺彩の断　彩りあるたらへるり
一院と切りたび　お経流也　源氏ゑ　源氏の物語ハさ長
一つ　とまはは通せあるもの
一つ　ゑとものの弟　源氏の
よ切とゑまりぐバとハさ長のちぐ
ゆんさぐ也
一紙ろ一　弟　あり
ぬりらやさバとハさ

るまさすがあり源氏にあらずんばこれをあらしめず

一馬のあらばぞうこのあらばぞうこの奇也

一むしろ琴 奇特ある也 鬼神あるる

源氏よあり

一法華経 法華経と云へる神仏を無の者あり

連歌 猿楽 能 法華経 味に法華経也

論義 経 法華経の法華也

一あるべし 仮名の綱也

一大幻牛車 法花一佛乗に帰入り

長者ハ釋迦如来法華ハ三乗乃機の舎利

弗等の所生也 火宅ハ法華也

一滅のこと乃奇 ひとれあり

能文千紙束三絵

狹衣下卷第四

一日うちとけ給ふ所　如來の神通妙義想地に住せれん
ものとへし。さらば色づくし身八佛即佛あるべき
ものを

一淨蓮淨眼の　妙莊嚴王八惡王の
ちうに二人の母ありとは母の淨德夫人と　雲雷
音宿王花智はいとめでさとりをひらき父の
惡王を導引なびかして神通を得て
ちくみをつくれど父王大なる欲をおこして邪見
をおこすべし佛ひとり指をくるに聖者と如
法ひめ妙莊嚴王八今の花法華也淨法

史人をとの仏菓を光照荘厳菓也 清蓮清眼
ハしての菓を菓ハ菓也
一舎利弗 劫濁乱時衆生垢重堅貪嫉妬成就諸不
善根故諸仏以方便力於一仏乗分別説三乗
方世界ハ本神ハ二乗三乗乃法ハ方也
一隙の白毫 欲撮也
一つ毫 入道尼君へ乃さ衣の白毫
一つ白しふあぶ 支引の御道世れる三巻ト法ハ
一つ白毫 んつ毫ひ放行へる尼ぬ〻でハ
をもるれぐ〻ぬ
一もるれ〻 引さ紀行へるぬ紙を白毫

ぜ〻やうよさ衣の白毫
一毫を一乗乃さを法ひく〻ぬ〻ぬ〻とある
とは法ぬ家のんぎ〻ある衣ぬ〻ぬ〻ぬ〻
てとぬ白そ〻ぬ〻ぬ〻ひ法へり
一あ一せん 〻あれ法師を阿私仙へよ法ぬり
一ぬの法を 白家あ〻ん物代と〻衣のあ〻めすも
一みぬ〻の神人乃祝ハあのと〻ぬるれど〻衣
乃白毫ぬ法世界紀ハぬ〻めきあとも
一毫よぬ〻 一乗一乗也
一さぶ乃ぬ 假法也
白毫ぬとぬ〻 法衣の衣の中メ法ひく

二かの道とも　ふ長の御ぶ
一さ風くの御ぶ　長文ちとも
一うゝ絶てさうゝ　みはさくみくちんまうえ
ど絶の絶なんも　うんとも
一山ゝ御　やう御　と云あゝんとも　鷲河也
一切そゝれ　枝四の橋　ゝ御ちゝうとめん
ちゝ御ちゝもこ　人名物別
一沼素ハとのゝ　ゝ長ゝ御ちゝうんさと
ゝゝ御ゝさも絶　ゝ絶ゝさよゝめさんとも
ゝゝゝゝ入道の　ゝ御ゝ御ん絶也
一ゝそやゝひゝ　ゝ長ハうひゝゝとあれ

とゝ切ゝ　めさゝゝ　也
一ゝゝゝゝ　ゝ長ハ新朝と　ゝ戸　ゝらく
ゝて　お家ゝ　ゝ入ゝの　ゝ御ゝ　ゝゝ
一くゝに　ゝ　ゝ長ゝ　ゝ也
一まゝゝや　ゝの女御　後一条院位の時　三巻三
さ長のゝゝゝ　也
一決流　源氏の　ゝ也
一ゝゝゝと　ゝ流滝院の女　ゝ也
源氏ゝ　ゝハ　ゝ
一代ゝ御ハ　ゝゝ御と　決流とゝ
ゝゝとゝ　ゝゝ

一云へ云く　女院は雅吟の時ハ女院殿つゝ
奇を所ゝ
一ものくるめ　柳せ
一柳ハ髪ふり　もとハ女院ゆくくるめ
也女院より
一形ハ
一三千ハ人の世界　一須弥千と小千世界と号ぞ
小千世界千と中千世界と号也　三十二相ハ仏の分ハ
千ゲ三千大千世界也
一弐郎ハ多上ハ　中勢宮の特也（中勢宮ハ
陽ゆる和親ゲ三十二ある也
さ長のたゆるゆゑ）

見の歌ハ実ゆゑ
一神ハ人のさもゆる通ハ　仏法也入ゝとゝ
長ゆゑて人ゝ
人ゝ長神を
ハ住ゝ即
一さてゝも　人の中ゝ
ゝもあゝハ長のゝ
一ゝ奇　陽
一ゝ紀ゝにあゝゝん
ゞゝゝ
一ゝりゝ人ゝて

ゝ紙ゝ長ゝ
ゝ人ゝ
ゝ相也
ゝ
ゝ
ゝ

の袋方とさゝ八ハ袖おとさゞよ九いれ文ハ面ハ人
もまゝじとも
一ゝんゝれるや　ゝのゝゝ　ゝ　ゝ　

一ものさんなりのかけ　ものさんなり　恵指

一うくひとあるさかり　うくひとあるもの　恵指

一かりさくら　源氏物語　若かりあるの巻あるべし

一ふのあさくら　入道殿を源氏物語　後

一ひくるあるもの也

一もくし　車うを也　源氏

一ふ漏　三書の也　ハ漏あり　仮名

さくらは漏也

一ふ　三十よハ　式部の文のよりあり

一ものさんなり　杉本の橋　ものさんなり

一ものさんなり　杉本の橋

一杉本の花の面影也

一ものさんなり　入道の文れんあるく　ものさんなり

一ものさんなり　杉本の橋の花　ものさんなり

一中将　式部姫の姫　ハさ良の内侍の時一文

一ものさんなり　但　ものさんなり

源氏物語　ものさんなり

一宮の内侍　源氏

然ハ　あれハ　いとさもあらし　この歌　[illegible]
あらと　一長文　衣のをとなるもの也
一ちぢ花　姫君の代りに母ちかべし
一ゆゑ　ゆとハ　一行　ちかべ　母上　さ衣ハ　[illegible]
まもんもの也

一右のおとゝ　宣耀殿と系譜あり。
一のとうゆもゆ　部ハ　ゆべしもなれ　月数
なり

一ひとりぬ　さきの　ひとり　理　[illegible]
をとうべ　理を　[illegible]
[illegible]

一ひとりあや　とぐ　[illegible]ハ異別也　[illegible]
中なごり　[illegible]
[illegible]ハ自　[illegible]

一うちさく　[illegible]　源氏　[illegible]
[illegible]　細工　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]

一あさ　格式　[illegible]
一ゆ　ゆ　[illegible]
一[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

一ゆるしなくて　武家にては　玄蕃かに　[illegible]

一くらべうまれ　さ女の事也

一そうの事　[illegible]

一さしもちハ　[illegible]

一あさ麻や　[illegible]

の山ひハ　[illegible]

一宰相のゆ　[illegible]

事やうう麻と　[illegible]

紙へ也

一さやうの山麻ら　[illegible]

[illegible]

一ゆ[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一

さやけさ

一八月十六夜 月の葉の上に露の宿のさびしさに人しれずなる

林をさそひぬるかな

一年のわかれ 九月 おくづかたなる物うらあるものの

年はてるなるなり一歌のこと

一百人一首の年のはじめ八今ごろ始めて拾

ひうらなとも

一十市の皇女 あり

一我と又 さ衣の 十市の皇女 稲の花はたて

ど色はあるとあるなるなりけりひな

いはんもえ八一筋よりあるの姫君匂ふ物語なり

のつりうひあ 九月 あくまとこの年ものも

一あるべきなんち たるべきは合はせもと又姫

君をあひ奉るとも中あるなんもも

一南得水

一恋のもの姫君 うちの春よ れあり

一歌代 人歌 源氏 宇治 春よ

一歌ひの年 実ものもの

一あるとの 四月 北の川のべし

一うけて 五月 稲めし 五月 五月

九郎を初めとして[illegible]の獄[illegible]
を家名乃独さくハいろぐやは母よへしられだ
一弟義経と云也一族ごろ出てかたとをきんとやさし
一くもや　源氏の剣[illegible]さあと云んも　あ[illegible]を
一葛のちよ　出居をめくむとあわをらあくんや
一而[illegible]　狩衣[illegible]也
一りのありひの花乃枝さ　[illegible]
まされ地ありひのとおろ[illegible]
一ゆえもをぬ[illegible]　実ゆるんるべし
一ゆうの衣　[illegible]

一[illegible]乃家をうへ[illegible]
一[illegible]　[illegible]
一あ[illegible]　姫[illegible]
中わ也
一[illegible]
一十[illegible]　十[illegible]　[illegible]
一[illegible]
一[illegible]不絶
一[illegible]
[illegible]
一中[illegible]

一ノ按察使大納言の舞はよろしかるべし

一ちとうりの舞　年はまだきさいなれどもあるべし

一あまそれうと　源氏八乙女也

一おとうど　夏の宴めのこ也

一宰相のゆうさぐらんあたいうぐの間かしはんと

一うぐいすの　鳥もの舞八繁りもあるべし

一あくまとび　きさいの舞

一ちとせとび　きさいめ八乙女より後さいはんの年

一ゆうやとんと　也

一ひのもと　梅もとわてわべの間舞也

一ちとせ　花そ咲めけうづ　桜也

きそ切りまし

一ほどくく　ちとんぐら也　姫君の母上へんこれまと

きさいもものぐら姫君にもとうもとりひきめ

也

一紅葉　もとうれ　八乙女也

一ちとせ　さえ　ちとせ　ちとせ

御母のぐくまちそこの舞八也

一来ちどして　俗りちとちとべし

一うとと入

一うぐいす　舞八ちをれだ入とうあるべ

ちとうん

一ちいさきりん　竹なり

一かうちまげて　なのうちまばめるんもちるべし

一ひるうひあるは　そだうちと乃てうち物也

さ紙へさしむうるの先のうち也

一ちううり　ちん紙と用ゐこしてとう也

一夜の法きし　あきほどたんうく乃てうち

一ふやまく　踏ふ　宰相踏ふをたべて荒た

ちをみまてて　ちがうさたとも　うべちんみく

白と切てや

一乃爾ちりさふ　一ふ之へ切て、ちづうよゆうさ

て姫之度みまく　法ちんみや　年寄引やう

一十五日　粥の杖　杖めく　杖ちるもて動　慧中

しも粥杖　杖て　女屋とうそば男をまもそて

うし　跳おちるどにはことくしこさやちりか久ハ

一不知也

一月名　さ衣　さ衣の法娘　さ衣の法姉　春衣

一ちうの月　大夜の法娘　さ衣の法姉　春衣

一ハまうこ月　ハまうこ月　杖ちるもて

一夜こあひく　まいりの年のうち也

一さてはとは さくらを てい又 紅人への古歌とあり
はとも也
一初ぐさそそ山 ぬぐさもとも
一ちりもしん寺 ちりれもす
一二ふの文 能毛野乃母の姫毛也
一あるあるゆ 文の姫毛めでたぎを乃ぐら能毛
針 元のゆ幾毛 ひらうく 元の事 あるとあぐ一条
虎乃一ふの文をは母と元事 あるくあらんとも也
文ぐ文の紀と 紀ゆ ゆくちり
一文も 若宮を紀ゆ 迷ひうの八元ろやも
さ安の河也

一あやうたとはうくんもりまでうくうく代又あや
くあるとも也
一ちかさハ みかゆくもちぐさ海で紀ゆるも
ちぐさは紀列也
一さ海ことのあうぐを ちとハてにも也
一ちうの虎乃西時 ゆ文ゆぐんうちると紀うり
一つとあまうう 見る代あゆそこの引寄代あ
たり 引寄 紀ゆ
みう代あうくやもんうやもう
一耳ご海を紀ゆ也 ぐまで元のゆの地ちり わぐ代
ゆはさ海也

一等覺　菩薩の降位　十住十行十迴向十地等覺妙覺　是を別教の四十二位とする也

一水の旬波　流れたる所　流れたるべし

源氏字治巻　さ夜ふの也　又は也　奇也

一絶ゑぐりあるこん奇　奇也

一月ぞふを　源氏文は奇也

一芹　はこ　あこ　あり

一紫の紙　車　車小七車　はこ　八　あるべく　秋

一八　七車　ひ　奇　あるべく　なるべし

一行くもく　紙　ふを　ゆ　ゆ　ゆ

一手くしひん奇　さ衣

一ちる紙切　ひん　人あしもんぢあると云なし

切しるしもしかるる程乃髪ハあるこ所とのは人ちり　さ衣奇也

一ひん　橋川虎也

一扇てふ　ふる紙切

奇らうんもも　又ものこそあるべはらうん也

一ひきつれて奇　切かまれ　今上

一うつ今正　さと衣　也又ものこそ

一ものとうりと　ものこそ奇　手くれ　源もちぐる

ものこそ　ものくハ所　弟美

一ものこそ人さ物とと　ぎにはらきんとものこ人あるべさこと也

一地と　ものこそ　引奇めの上又今この奇にものこ

ものとものこそ　ものこ超こ也

一蓮　蛇生　史帰　性生同　ものこ也

源氏よ切

一かよちやう　加輿丁　水がもりうこと　ものぐ

一ちやも　ひんあると

一ものこ奇　こ

一ものあぎもるは　秋成よあるこ紙もん紙

こ所と神の出たあ中ものこ奇なる紙こ所紙

ものこで伝よさ人伝紙こと也　人歌めこと人ぐる

こゝもとも些秋月の人敢まるべし此一方に
一八幡宮の奇　うくまあり　今上
一神垣の板　同あり　お巻よ多紙あるべし内乃巻中
一式世あけとりや
の奇也
一乃くうてまつり　一番此一ふの三文よりあつて也
二文今上の法ゆ初めて八幡御宮御所御浄ゆ
まつるや御元服の祝ゝとあらせられ給ふ
あるべし
一年はをるは奇　うくれちり　今上
一つみ〳〵へよ上紙ちゝ
るんあるまゝ　さゝとに拍子ゆて

一三文乃法奇　中文乃法奇　今上の入道文の法ん御
まぐとも　引奇つめ　更の時中に清水めりたれ
とゝもとのん紙ゝまる人ぞらむ
一しと更す　えぞまゝさんとゝも　ゝ
ゝ分一　今上
一あるべうしゝの　あんるゆうのてふまちるべ
一佛ゝ上ゝ　止て不頭説　方便
一佛　無乃法門を含利弗の清一ゆされげる
一相違　紙のとうゝとゝ　今上の一ゝ文ちるべ
一三文　北条井乃文の法娘也

一故実　後一条院の御時は今日とてとて
稽古　ものしたまふと今上と御口生也
一いとをし　家　ちをし　世の御ひめ　ハ
しもの也
一約束　ちかひ　ちかひてもちかひ　ゆどりを
三川守　三川　ちかひ　ちかひ　母不飯よりの口とし
一かりまち　奇　又　お　ぬてもりし時　ぬ
一人　主　一　ふ　ぬ　乃はらぬ　ぬ　ぬ
ぬる也
一さのとの　美　苦乃　ぬ　素　脇　素　先
一ふまて　ハ　人　脇　也

一もし　来　同
一とれど　同
一すめる　今上　かまとめて　中　ねの　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　さ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
てくゆる　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
一ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ
一ぬ　今上　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
一ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

源氏ハ紫雀院の御幸ゆゑ
乃ち懐紙をせんへ
一清書てかゝれ
一あもりうへ
此紙のうへ
か年と書て
を金部をんあ
ものさるへし

今上

源氏愛花宴橋乃面影也
御紙ゑんさう四冊
後世の人

天正十九年三月九日

臨江斎
法眼紹巴

狭衣下紙第四終

狭衣系図

一條院　沛母后

知りもあさせ行ふり一巻よりんえんさり
かんれさせ行ふり二巻ゆりんさたり

後一條院　沛母女御大政大臣女

一巻ゆりもとまゑ沢させ行ひて二巻ふた位ゆりつき行ふ
四巻ゆ知りあさせ行ひて又一条院の治ゆます

ますも

兼宮　沛母弘徽殿后洛湯院位女

一宮　沛母四

洛湯院皇太后宮ゆ世行ひて　斎院ありとあさせ

法ゐは、契藏よりそうりゐをひて、女院ゆとゆゆ一
条院くまつをひて、坂下二郎三条をひてさ家
乃ゝ、将のゆ方よりまつをひて、三巻よりんん
さりの巻りうれさせをひ
私母女院のおもをひる一条院より位のゆ三巻に父帝
乃ゑりに法ゐんせんとて、茂藏よりをひしてし
女院ともをりおもをゆまをひゆとあり三巻嫁聚
の時三十歳せさ家よりあひて四巻より尼よりあり
てやゞてうれをひへり

滝殿院　伊母内

一巻より法位ゆ時天雅法よりあまくぐり二巻より　溢北年

春宮　伊母中宮　播川大臣女

一巻より一宮ゆしかんくしさり二巻にはまをゆり立をひゆ

若宮　伊母皇太后宮　先帝のゆりうと

二巻よりまつをひゆ七月とりよりゆ母をりをうれさせをひ
ゆ滝殿院ゆうりうひをひゆ時さ家大殿よりづ巻をひゆ
海とゆ大将の法ゆ女二の宮乃法服さゞのゆんの法孫
ゆりうまをりをひたまを風ささせをひゆ四巻より法元服
法華院宮と口
私
三巻より一条の宮に法をひゆとあり四巻に法元服の
時より今上一宮とあるれりゆ一条院の若ゆ宮

とあり是をば相撲すりはまさせ給ふ

鈴院　清母同

鈴院より出給ひて二巻は西母宮乃御服にはた
はまさせ給ひて一条の宮は位の御大将乃西御
法のあと後一条御位の時三巻は内へまいりて
弘徽殿と申奉る姫宮をこの后
たち給ふ

私　一巻は女一宮とあり三巻のまに三十一歳の
時入内あり四巻は院の女御とあり

入道宮　清母同

女二ちり帝とりあ給ふ天子西

くだり給ひ〜又五日の秋大将乃殿乃代
給ふ也んと清盛の給ふ源氏宮の出給ひ
ひみぐれてんとも申給ふ中に弘徽殿の
ひまもんの秋日宮まりて大弱ましまりてよろこ
を出給ふ母后わづらはしみまりて奏し給ひ
よ申げ〜ちぎきこしめしたまひて御ふ后十日と
ひみぐれざせ給へる後ちとに申げて出家
りことつ申て出げ〜申ろ給ふ
私清盛院のうちに位の人と三巻にあり能書の
より四巻とりあり

鈴宮　清母同

二巻は後二条院の御宮に宮ぐりと巻み伊勢へ下ひしと女
三宮と内くるもの入道宮よりもとり給へるとちん
堀川の大臣　御母同后腹と一巻ゆ尽さとり

一条院漢渡の院ひとつ后腹せ角ぐんよ物て
内くるはゆ　狭衣大将の文し
私　六十四代国献院れこの内に内まて一巻は関白
とおもと二條堀川し四巻はあり四れ内門は分
主ゆ堀川の院と号まて
今上　御母は帝内侍の女
今上とハ狭衣の大将の内くるはし一巻は二位の中将
同九月は分一納言三巻れ心はは大納言ゆてさて

内侍は一巻は五月五日誕生ゆ内侍ひしは天録は
あまよくるり給へ東宮門女三宮も給せんとの給へ
しなど堀は一条院乃一巻を三巻に給り給へ内侍
し源ゆて類給へ二巻は高野ゆ参て巻賢菩薩
あり四巻は三巻に賀茂て賀引給ひを賀
茂は湖神大り感し給へ四巻に内侍の給へも
ゆて伊勢り給へ
私　神代巻下れ初は天国玉乃子れ天稚彦の喪
乃ゆあり一巻に源中将とあり又十八巻とあり
四巻は賀茂神又天照大神れ告ありて即位し
一宮　御母中宮武尸の女

正巻よりもすれば法よ今上乃一宮といへり
私男はてのし二巻の十月袴着し
一条宮 御母北条乃帥平中納言の女
一巻より股の間七月ゆてはうへ下孔道すそ女
巻人をもをもぎりに物の高へのぶ所として奥
しして常態といふてむまれ給ふ百日
るして一條院乃一条の次のはるゆめして姫君
とそしづき給ふ三巻より法袴ぎ太政大臣
まいり給ふ四巻より一条の次と見てしり
私七巻の時袴ぬてゆひ八次と一年まあり
四巻以前後乃又二宮と申しそ

の次にこれさしは雲も養あり
中宮 御母式部卿宮御女坊門の
はうぐのゐんは位の時まうり給ひて一の宮うこ給ふ法皇
えりとめでゝ巻より皇后宮とあり式部卿
の姫君八乃又下枝乃寄あり
今姫君 母一条院の北の童八条中納言の
一巻より東院上むうへとり給ひてうづ給ふ
とゐのうむ給ふ氣ものうへし母とぐはんう入給ひ
東院上後一条院は位ゆ時三巻よりのしせん
ゆ御ふり太政大臣のはる寄お中納言
中ゆ御ふり太政大臣のはる寄お中納言

四巻ハ乃ゑんはりんおかとゑて母代ハ有あり
ゆ〜ゆ〜者聖川ゐるにうわるゑとゑて
ゆしん
私母代ハ西国の受領と四巻ハあり

先帝
式部卿の宮
うゑれ行へるゝ一巻ハ乃ゑゝ
後の式部ゆゑ
うゑれ行へるゝ完を一ゑ・に乃ゑゝ
宰相ゝ将

一巻ハ宮少将とゆり四巻ハ宰おゝ乃ゑ
○二巻ハさゝ家とゑ
三位中将と行ら
私ハ園外ハ流ハ誤ハさゝ家とゑ聖へゆら行ひ
ハ中将勢宮のゝ三位中将乃ゆし
私ハ一巻ハ今眼ゑのゆゑとゆゑとあり
男子
ゆ姫君とひとつ服・文の中将ハ御ゝらと行ら
私母宰相ゆゑとゑ聖へ如ゆし一巻ハ式部卿宮ハ佐ゑに
姫君
藤壺ゑ聖へさゝ家ハ位の時一宮ゝゑ
私四巻ハ宮の女御とゆゑ一宮とゑ行時ハ三位

[illegible]

堀川の大臣乃中宮をうつし給へ

[illegible]

源氏の口沛母中納言

沛求よむ[illegible]れ給ひてやがて父帝よりうけ給へ

母内侍息所と[illegible]野宮にうつし給ひて堀川大臣[illegible]

母宮おいたる[illegible]

久へとわてうづ[illegible]給ひ[illegible]

くらうなる[illegible]給ひ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又回、巻ヨ大宮と書き弘徽殿ヨ位ある

私 二巻ニ中務宮、[illegible]中将宮

中将

天皇ハ[illegible]

一人

私 二巻ニ中務宮、[illegible]中将宮、[illegible]

位の中将といひしかとも

[illegible]野へまいり給ひし

姫君

弘徽殿の女御 大后宮

豊かにて天皇ハ大将宮ちぶれ給人 姫宮の

一といひ[illegible]ハ姫君[illegible]

の[illegible]

武部卿宮上

狭衣の大将の四巻 姫君やとそひ人

さ衣ゆきさぶらひの河し四巻 の花乃ものうの花ひ人

私 四巻ニ[illegible]

横川僧都、

[illegible]

[illegible]

太政大臣

後一條院の御母　祖父世[illegible]　人三卷

今姫君の御母　[illegible]に御腹ゆひ一人

一條院の女御

もとは皇太后宮と申　紀三卷　尼[illegible]

女御と申也　後一条御[illegible]

私三卷　東院上

堀川の大臣乃ぬし　今姫君と奉て　後一条御三卷へ

まいらせんとしひ一人はるかなり

左大臣

一卷　[illegible]中納言　五月五日　天[illegible]の下行ひ

秋[illegible]　一人三卷　大納言と[illegible]

一品宮　[illegible]中納言の君にゝ[illegible]

一品宮のぬまゝ　[illegible]一人

○四卷　一の大納言　[illegible]大[illegible]

私　圖外乃　[illegible]一大納言　[illegible]宮の大[illegible]

[illegible]の舎人乃ちう　[illegible]巻の大納言云ハ[illegible]の別書し
しあり同巻にて左大臣よりの又関白にちう[illegible]

大納言

一巻ハ古[illegible]の天[illegible]法[illegible]の歌　箏琴ひさ
しん　三巻に宰相中将ゆて今姫君よりひへ
私云　三巻ハ撰大納言とあり四巻に新中納言中
おとゝ[illegible]を今ハ宰相中将とぞいふ又同巻此条
ハ今姫君の[illegible]ちう[illegible]ちう[illegible]ひ宰相中ねハ
此一乃大納言ゆて[illegible]
少将　無今姫君

三巻ハ[illegible]の[illegible]ちう[illegible]
うしまもとゝあり

姫君　母君
四巻ハ母上[illegible]那　宮ゝまいりせんとの[illegible]
[illegible]

左大将

宰相中将
宣耀殿女御

天[illegible]の歌和琴引一人
後一条の院[illegible]の法[illegible]まいり給ふ[illegible]
[illegible]　[illegible]
あやめの[illegible]

私ニ三五記下ニ千ヲ

一巻にあり
右大臣

此時を以て源氏の君位乃時まいりせんとあるし
人也

姫君
藤川一巻のかたぐ鼻ニ高うゝんやの給ひ人〻撥
中納言大臣息
細殿ニ出給ひにそ人〻乘
私一巻ニ春ニ入まいりせんと文あり見し

後住大納言

姫君

此ひめ君初瀬ニ詣給ふる人〻四巻ニあり然
俗と八源氏ニ成し

仰ニ中納言　九列ニ成ぬ　二巻

[illegible]
[illegible]人二巻の末り猿丸ニ成る人
まいりてめ出そのうゝの龍田川のゆく水
とひ給ひ人常盤ニ成て佛ニ成し
龍田川君

一巻ニ右衆少て威儀師仁和寺人
[illegible]
[illegible]

よ乳母
主乳太夫補九列へ
さして唐泊へ
わかよりあひて
て坂尼
常盤尼

三巻

ものと八一条殿の女房
門守よりてきて
面一人小宰相君
一条殿の女房

人長門守のこと
私四巻末より中ねとあり
統第守如方

これハ長門守うば
今姫君の母
一条殿より童
ゆへ今姫君
ひとうめり
別當

一巻ハ右京の
名外の水君

長門守
物の
ひと
ひと

水將　一巻
さ衣大納言殿　名井より遣ひ　法　水無瀬とうの法ひ人
私　一巻ハ一ノ巻人みなとより

大夫乳母
さ衣大納言のめのとの
私　一巻より大夫の少方とあり　四巻より大夫三位
あり　初ハ三川守　後ハ大夫　二度大夫とあり

肥前守

武部大輔　通成　名井　一巻
つて　扇の風吹　人　三巻よりのぞ

私　一巻の大ぢらい　二巻の初より肥前守
が　ぢらいあり　又　為人　うちとけ　ふ　とあり　三
巻より三川守とあり

道季
さ衣法ちらくめ　はう
私　二巻の初ハ三郎とあり　又法ちらくめ　新
て　思ひの内あり　きたいたれとあり

常陸守　水守
中納言　内侍　伯佐　濃　機院　内宣　太和文　二巻
二宮の内ろ　大将　待　ろ　うちぎ　て　大納言乳
母　ぢ
私　内内佐　三ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ

[illegible]
[illegible]又中納言[illegible]
内侍の乳母　一名兼[illegible]一名[illegible]の内乳母さ[illegible]の[illegible]

ごくの家風[illegible]

中納言の君

さ[illegible]乃立[illegible]ごくの家　摧大納言にとりこあられ

て[illegible]より[illegible]乳母の内侍[illegible]

[illegible]乳母と大納言乳母と八入道[illegible]の内乳母[illegible]

入道宮[illegible]

ひて母[illegible]内乳母[illegible]

[illegible]内侍

行[illegible]人二巻

大納言の乳母　源氏の[illegible]内乳母[illegible]八[illegible]

[illegible]人

三巻より[illegible]八[illegible]乃[illegible]

宇佐　宮の[illegible]源氏の[illegible]

いりし人二巻より乃西

木幡乃伊郎　[illegible]川[illegible]

[illegible]内侍[illegible]

伊豫守　[illegible]

せゝ[illegible]

中納言　一巻より[illegible]

[illegible]り給ひ[illegible]ふそれ[illegible]
[illegible]ばとあり[illegible]時[illegible]ふ[illegible]ひ人

中務　同時宰相[illegible]
[illegible]の命婦　一巻より[illegible]の代乃[illegible]　[illegible]川の[illegible]
[illegible]　一巻より[illegible]の[illegible]の[illegible]ひ人
私　一巻より[illegible]の[illegible]とあり

宰相　中務[illegible]の姫君の乳母　一巻より[illegible]
[illegible]て[illegible]
[illegible]し人　二巻のうまれ乃[illegible]
[illegible]ひ[illegible]
私　乳母[illegible]小宰相[illegible]　二巻[illegible]あり
[illegible]君　[illegible]

やいひ人
[illegible]の命婦　一巻[illegible]
[illegible]つぎ人
中将の君　三巻より弘徽殿のうへ[illegible]の[illegible]
[illegible]
中納言の[illegible]　源氏の[illegible]の女房[illegible]
[illegible]人
長門守[illegible]の女
中務[illegible]の[illegible]
私　一巻より女房たち[illegible]
[illegible]

舞の　しと二巻　の長門守　焼くん

六波羅　の第　舞しん　二巻にあり

長日の巻　あまそう井　乳母が男

四もく　乳母井　長の女房

大捕　あまそう井の女房

かまくらのみいぐ　乳母井　そうし法師

乳母井の乳母　まくさ一巻

大夫の将佐　さ長と一巻　乃久もて　あり

しん三巻にあり

中将君　一巻　三巻大夫の法師　三巻大夫の法師

なて　姫君　三巻　みきこと

欲　欲ひもて

一人三巻　牧長

女別当せんじ　源氏の文乃女房三巻　あり

宰相乳母　為文の法乳母　僧養乃日記

いぐ義　ある人三巻　あり

山僧都　ちかぐの僧都　とあり三巻　大夫

世義　ひとちんと　ひしは　義みく

うへ　の　仏の法ひ　人四

ありける乳母　べし

義人　四巻　実義乃　帝　と　法師へ

まり九人

まうしあげ　長東はさ四奏りしなり
摂州の陸方者　きうしゅう加賀まろうしゅう　あるの法
うじゅうの辯乳母　式部卿の宮乃中臣の法乳母ちゑ
四巻よあり
寧和の君　一和の文　熊野乃法ちんじまる時り
帝れはうしゅう人四巻りあり
右近の君　殿仕大納言はもとめ源氏の文よ物さ
那ゆう　摂州の太良上よりてうりゆせ人四巻
りあり

ここ乃もて系譜と諸道遠法
入道竟空尊者の法仏ゑ也精撰する
へしこれこれ他本をあつ先按合するよ
展轉書寫の誤やよりよ損落の文字
又ハ和漢の結乳おまて是れを和さ
まえることをしるべ考合て清
書をしめ年号対第庭甲午歳仲
夏日東京黄臺山釋野切臨叟誌

寛應三甲午歳春秋吉辰

谷昌七左衛門板行

本